昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和54年11月15日発行（毎月1回15日発行通巻第121号）

バドミントン 11

日本バドミントン協会　The Badminton World No.121 1979

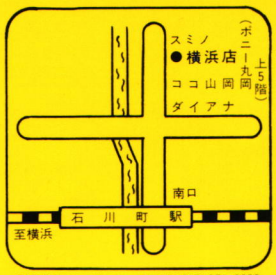


四番打者、行けジョージ

11/16 吉祥寺店オープン



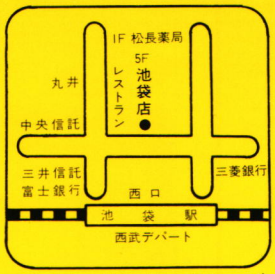
ラケットショップ元町



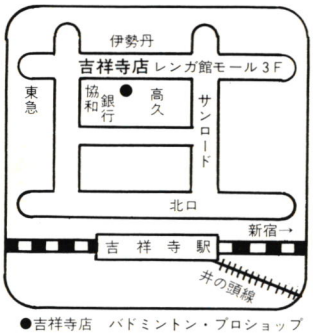
●横浜店 5F テニス・フロア 045-651-2020
☎ 045-662-9857
4F バドミントン・フロア
☎ 045-662-7133



●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390



●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215



●吉祥寺店 バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890

バドミントン'79 11

❷ 第1回世界オープン・バドミントン大会 ロプケ、プラカシュが3000ポンド獲得

❻ 国体速報——教員男子 有終の美、石川が飾る

❽ 国体速報——成年男子 千葉、破壊力で連覇

❾ 国体速報——成年女子 意欲充分、栃木初優勝

⓫ 国体速報——少年男子 熊本、激戦を制す

⓬ 国体速報——少年女子 〝完璧〟大阪11度目

⓮ ふるさと国体こぼればなし 近藤　満

⓰ オールジャパン'79 栄冠のゆくえを占う 銭谷×土田の一騎打ちか、女子は混とん

⓲ グラフ 国体で活躍した選手たち

㉕ しなやかにシャトルを追う イメルダ・ウィジョノ

㉖ 第1回日本バドミントン・リーグの展望 実力伯仲の男子4強

㉘ バドミントンの用語ABC／後藤忠弘 その1・A～

㉚ 台風20号直撃で列車に一晩カンヅメ トリプルズのすすめ

㉜ TOKYO LETTER

㉟ 特派員だより 大阪市・津村正道

㊲ 分析シリーズ・バドミントンの時間分析 ワールドカップ'79女子ダブルス決勝

㊵ 読者と編集者 編集室から

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室

◇今月の表紙＝ふるさと国体の歓迎タワー

FRIENDS' PROVIDENT
BADMINTON TOURNAMENT

The World's First Open Badminton Tournament

第1回世界オープン・バドミントン大会　ロンドン 9/19～22

ロプケ、プラカシュが3000ポンド獲得

―― 世界の19選手が覇をきそう ――

日本は女子が健闘

世界男子の力べは厚く銭谷は450ポンド

バドミントン史上初のオープン大会であるマスターズ大会＝第1回世界オープン大会が、9月19日から22日まで、ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールで開かれた。

この大会には総額2万700ポンド（約1035万円）の賞金がかけられており、フレンズ・プロビデント・ライフ・オフィス社をスポンサーに、イングランド・バドミントン協会の主催で開かれたものである。

準備段階では、世界の第一線プレーヤーを軒並みそろえて行なわれるはずだったが、インドネシアが不参加のため、やや寂しい顔ぶれとなった。

試合は、女子シングルスで結婚間もないリーン・ロプケ（デンマーク・旧姓コーペン）が宿敵ギリアン・ギルクス（イギリス）を下して優勝、湯木は3位にはいった。

一方、男子シングルスでは着実なプレーを見せるプラカシュ・パデュコーン（インド）が、モルテン・フロスト・ハンセン（デンマーク）を一蹴して3千ポンドを手にした。

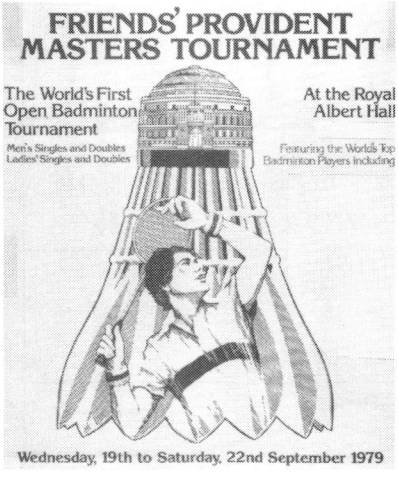
ダブルスでは米倉・徳田が予選ラウンドでは勝ちながら、決勝でペリー・ウェブスター（イギリス）に敗れ、二位に甘んじた。

銭谷も善戦したが、やはり世界のカベは厚く、シングルスでは全敗、プラカシュと組んだダブルスで片目をあけたにとどまった。

出場選手は次のとおり。

◆**女子**＝リーン・ロプケ（デンマーク、旧姓コーペン）湯木博恵、徳田敦子、米倉よし子、近藤小織（以上日本）ウェンディ・カーター（カナダ・旧姓クラークソン）ヨーケ・バン・ビューセコム（オランダ）ギリアン・ギルクス、ノラ・ペリー、ジェーン・ウェブスター（以上イギリス）

◆**男子**＝プラカシュ・パデュコーン（インド）モルテン・フロスト・ハンセン、フレミング・デルフス、スヴェン・プリ（以上デンマーク）トーマス・キールストロム、ベント・フローマン（以上スウェーデン）銭谷欽治（日本）レイ・スティーブンス、デリク・タルボット、マイク・トレジェット（以上イギリス）



◆グループA・女子シングルス予選ラウンド

ロプケ 2 (11—5 11—3) 0 ペリー
ロプケ 2 (11—3 11—7) 0 徳田
ロプケ 2 (11—8 11—5) 0 湯木
湯木 2 (11—4 11—3) 0 ペリー
湯木 2 (11—7 11—4) 0 徳田
徳田 2 (11—6 11—7) 0 ペリー

（Aグループ順位＝①ロプケ3勝②湯木2勝1敗③徳田1勝2敗④ペリー3敗）

◆グループB・女子シングルス予選ラウンド

ギルクス 2 (11—4 11—8) 0 カータ—
ギルクス 2 (11—1 11—1 7—11) 1 近藤
ギルクス 2 (11—2 11—2) 0 ウェブスター
ウェブスター 2 (11—3 11—4) 0 カータ—
ウェブスター 2 (11—8 11—4) 0 近藤

カータ— 2 (11—4 11—5 2—11) 1 近藤

（Bグループ順位＝①ギルクス3勝②ウェブスター2勝1敗③カーター1勝2敗④近藤3敗）

◆グループC・男子シングルス予選ラウンド

ハンセン 2 (15—9 15—6 12—15) 1 デルフス
ハンセン 2 (15—9 15—2) 0 スティーブンス
ハンセン 2 (15—2 13—18 15—7) 1 銭谷
デルフス 2 (15—10 15—0 6—15) 1 スティーブンス
デルフス 2 (15—7 15—7) 0 銭谷
スティーブンス 2 (15—7 18—16) 0 銭谷

（Cグループ順位＝①ハンセン3勝②デルフス2勝1敗③スティーブンス1勝2敗④銭谷3敗）

◆グループD・男子シングルス予選ラウンド

プラカシュ 2 (15—3 15—10) 0 キールストロム
プラカシュ 2 (15—12 15—3) 0 プリ
プラカシュ 2 (15—5 15—5) 0 タルボット
キールストロム 2 (15—4 11—15 9—15) 1 プリ
キールストロム 2 (15—13 10—15 9—15) 1 タルボット

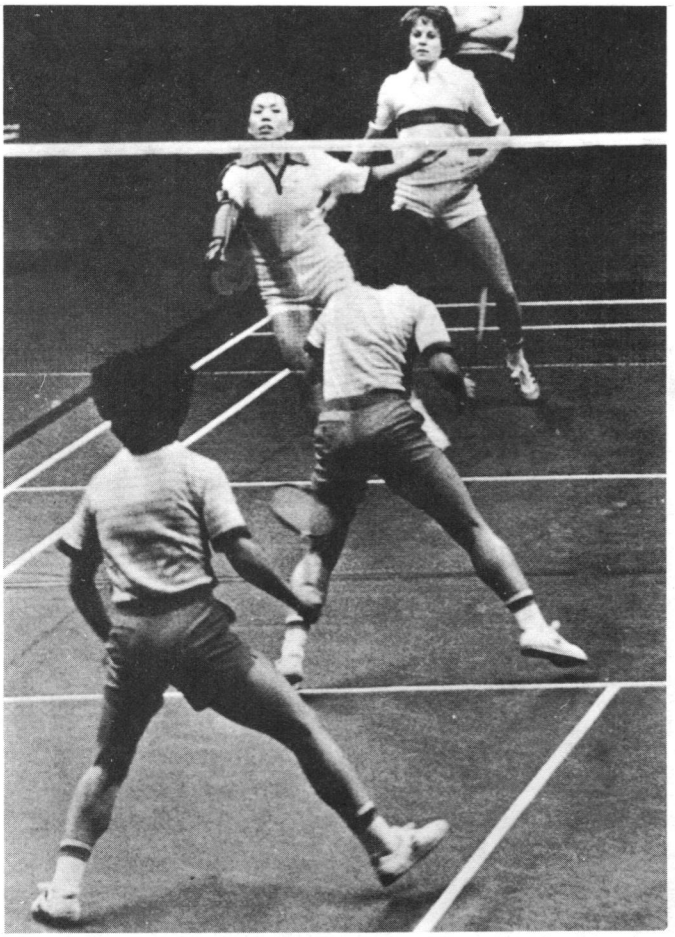
プリ 2 (15—6 15—2) 0 タルボット

（Dグループ順位＝①プラカシュ3勝②キールストロム2勝1敗③プリ1勝2敗④タルボット3敗）

◆グループE・女子ダブルス予選ラウンド

米倉 徳田 2 (15—4 15—3) 0 ロプケ ビュー セコム

ペリー 徳田 2 (15—12 15—12) 0 ウェブスター ロプケ
ペリー ウェブスター 2 (15—8 15—8) 0 ビュー セコム
ペリー ウェブスター 2 (15—9 14—17 15—9) 1 湯木 カータ—
ロプケ ビュー 2 (15—8 15—7 14—18) 1 湯木 カータ—
セコム



カーターと組んで、米倉・徳田組（手前）と対戦する湯木（共同提供）

湯木　15—10
カータ2　9—15　1　米倉
15—13　徳田

（Eグループ順位＝①米倉・徳田2勝1敗5ポイント②ペリー・ウェブスター2勝1敗4ポイント③湯木・カーター1勝2敗4ポイント④ロプケ・ビューセコム1勝2敗2ポイント）

◆グループF・男子ダブルス予選ラウンド

キールス　15—7
トロム　デルフス
フロー2　0
15—3　ハンセン
マン

キールス　18—15
トロム2　プラカ
フロー　9—15　1　シュ
15—8　銭谷
マン

キールス　15—12
トロム2　ブンス
フロー　8—15　0　トレジェ
15—8　ット
スティー　デルフ

ブンス　15—12
トレジ2　ス
15—7　0
スティー　ハンセ
ブンス　15—15　プラカ
トレジ2　9—15　0　シュ
15—12　銭谷
エット

プラカ　15—5
シュ2　0　デルフス
15—7　ハンセン
銭谷

（Fグループ順位＝①キールストロム・フローマン3勝②スティーブンス・トレジェット2勝1敗③プラカシュ・銭谷1勝2敗④デルフス・ハンセン3敗）

◆女子シングルス決勝

ロプケ2　12—10
11—4　0　ギルクス

〈賞金獲得額＝①ロプケ3000ポンド②ギルクス1500ポンド③湯木750ポンド③ウェブスター750ポンド⑤徳田500ポンド⑤カーター500ポンド⑦ペリー250ポンド⑦近藤250ポンド〉

（注）1ポンドは約500円

◆男子シングルス決勝

プラカ　15—4
シュ2　0　ハンセン
15—11

〈賞金獲得額＝①プラカシュ3000ポンド②ハンセン1500ポンド③デルフス750ポンド③キールストロム750ポンド⑤スティーブンス500ポンド⑤プリ500ポンド⑦銭谷250ポンド⑦タルボット250ポンド〉

◆女子ダブルス決勝

ペリー　15—2
ウェブ2　8—15　1　米倉
15—10　スター　徳田

〈賞金獲得額＝①ペリー・ウェブスター1500ポンド②米倉・徳田750ポンド③湯木・カーター400ポンド④ロプケ・ビューセコム200ポンド〉

◆男子ダブルス決勝

キールス　18—16
トロム2　ブンス
フロー　15—9　0　トレジ
マン　エット

スティー

〈賞金獲得額＝①キールストロム・フローマン1500ポンド②スティーブンス・トレジェット750ポンド③プラカシュ・銭谷400ポンド④デルフス・ハンセン200ポンド〉

▼なお日本選手は、全員アマチュアのため賞金はすべて協会あずかりとなります。

★読者の皆様へ

来月号でロンドン駐在の山本洋彦氏の大会レポート、写真をご紹介します。ご期待ください。

Don't Miss!

オールジャパン'79近づく

1979年もあと1か月余りとなりました。そして今年の総決算ともいうべき、全日本総合選手権大会＝オールジャパン'79が近づきました。

今年は、選手・ファンの永年の願いであった全日程同一会場の大会に一歩近づきました。

期日は、11月29日から12月2日までの4日間で、メイン会場は、皆様にはすっかりおなじみの東京国立競技場代々木第二体育館です。

安定感の増した銭谷欽治、土田証雄両選手を中心に〝ガッツ〟小島一平選手、若手の長谷川博幸、西山博司、辻敏弘らの各選手らが競う男子シングルス。

世界的に超一流のレベルをいく湯木博恵、徳田敦子、高田幹子、近藤小織、米倉よし子、の各ユーバー杯選手の登場する女子シングルス・ダブルス。

そしてインターハイ二年連続優勝の権藤浩二、北田スミ子両フレッシュがどこまでがんばるか。心理的かけひきが面白い混合ダブルスなど、今年のオールジャパンは興味が尽きません。

メイン会場は国電原宿駅から徒歩5分。上野・東京から国電30分、新宿駅から国電10分のところです。地方在住の方々もぜひ、まのあたりに日本一のプレーをお楽しみください。

入場料は11月30日は全席無料。12月1日、2日が、大人1000円、中高生500円、小学生無料となっています。

競技時間等お問合せは、日本バドミントン協会（03—467—3111）。

会場では協会出版局の出版物たくさん販売いたします。

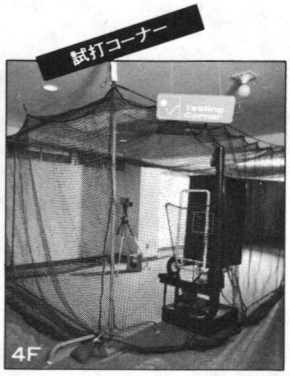
お楽しみに。

ずらり、4店勢揃い。

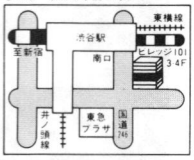
渋谷店

650㎡(170坪)の広々とした店内でゆったりショッピング。
試打コーナーも人気上々。





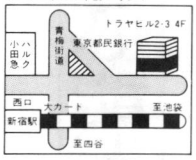
毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ヒレッジ101ビル3・4階）TEL03-464-9251～2〒150
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

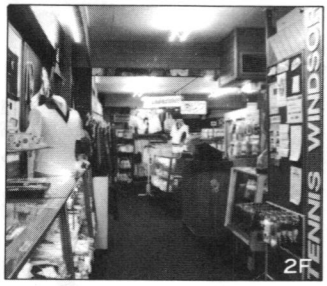


新宿店

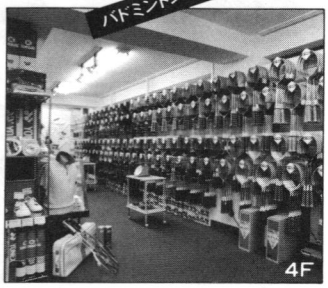
落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤヒル2.3.4階)　TEL03-363-6848〒160
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで





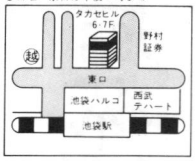




池袋店

つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が
店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休
●祝祭日を除く
東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセヒル6・7階）TEL03-989-0401〒170
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







横浜店

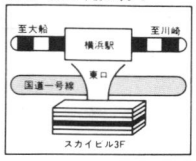
ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。
選びやすい各コーナー。







年中無休
横浜市西区高島町2－1　横浜駅東口
(スカイヒル3階)TEL045-453-1785〒220
●営業時間／午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

登録商標 WINDSOR ウインザー ラケットショップ。

国体速報……天皇杯は熊本、皇后杯は大阪

教員男子

有終の美、石川が飾る

群馬、5年連続決勝で涙



横綱相撲を演じた長谷川・舛田（石川）

第34回国民体育大会〝日本のふるさと宮崎国体〟バドミントン競技は、10月14日の総合開会式に次いで15日から18日までの4日間、〝古墳と野菜の町〟西都市で開催されました。

今年の都道府県代表は教員男とあって先生方は大張り切り、教鞭をラケットに持ち替えて、随所に好ゲームを繰り広げました。

あいにく、気象庁観測史上最低の低気圧を記録した〝台風20号〟の直撃にあい、中日から豪雨に見舞われましたが、それだけになおいっそう地元の人たちの暖かいもてなしが忘れられない大会ともなりました。

⊙バドミントン競技・男女総合（天皇杯得点）成績

▽1位＝熊本（14・5）▽2位＝大阪（11・5）▽3位＝群馬（10・5）▽4位＝石川（8・5）▽5位＝香川▽6位＝千葉▽7位＝新潟、宮崎

⊙女子総合（皇后杯得点）成績

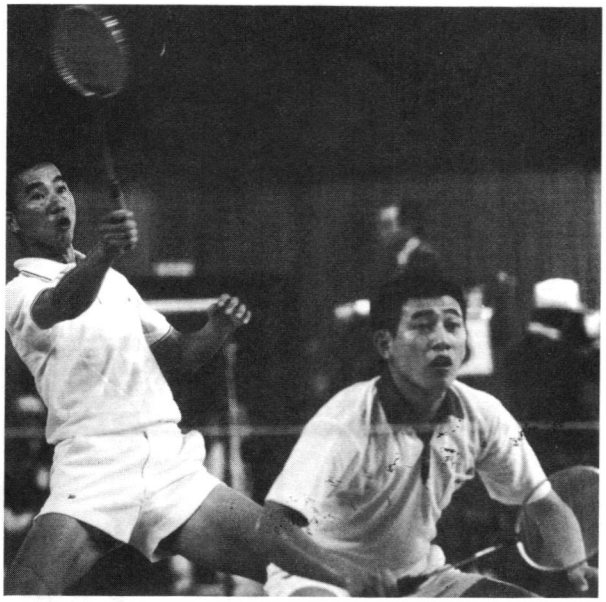
▽1位＝大阪（14・5）▽2位＝新潟（10）▽3位＝栃木（9・5）▽4位＝熊本（9）▽5位＝宮崎▽6位＝香川▽7位＝千葉、岐阜

▼教員男子3回戦

石川県 2―0 和歌山県
千葉県 2―0 香川県
滋賀県 2―1 栃木県
三重県 2―1 青森県
神奈川県 2―0 熊本県
埼玉県 2―0 北海道
福井県 2―0 宮城県
群馬県 2―1 大阪府

▼同準々決勝

石川県 2―0 千葉県
長谷川 2（15―12 15―9）0 上田
舛田 2（15―8 15―12）0 上田
滋賀県 2―0 三重県
藤原 2（16―12 15―8）0 西城
藤上 2（15―12 9―15 15―7）1 平田
神奈川県 2―1 埼玉県
杉田 2（15―6 15―10）0 阿部
池田 2（15―12 15―9）0 中村
脇坂 2（15―9 15―8）0 平田
高橋



悲壮感ただよう今井・栗原（群馬）

▼同準決勝

舛田	長谷川	石川県	2—0	滋賀県	今井	鏑木	今井 栗原	群馬県	池田	松本
2					2	0	2	2—1	2	0
15 8	15 5				15 8	13 18	15 7		15 6	6 15	4 15	15	17	14	
0	藤原				0	2	0		0	2
藤上					神戸	高岡	高岡 神戸	福井県	阿部	帰山

▼同3位決定戦

脇坂	藤原 藤上	滋賀県	2—1	神奈川県	鏑木	今井 栗原	群馬県	2—0	神奈川県	長谷川
0	2				2	2				2
4 3 15 15	15 5	15 8			15 8	15 2	15 6	17 18	15 6		15 2	7 15	15 13	
2	池田	松本			0	1	杉田 池田		1	藤上
池田					松本				神奈川県	

▼同決勝

舛田	長谷川 舛田	石川県	2—0	群馬県	藤上
2	2				2
15 8	17 14	15 12	15 7		15 5	15 4									
0	栗原	0	今井 栗原		0	松本
栗原															

（石川県は5連勝10度目）

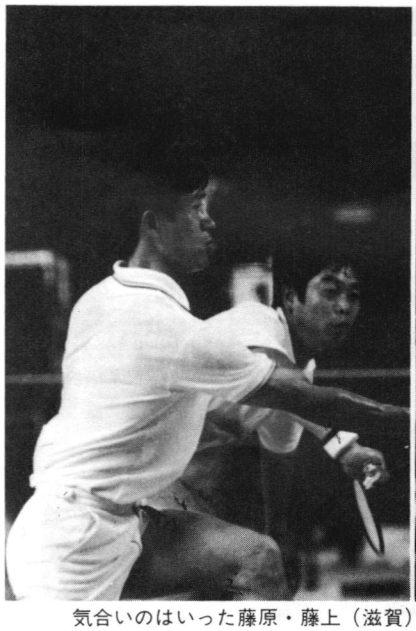
石川県が、長谷川、和田、舛田の強力トリオをフル回転させて、堂々と5連勝を飾った。

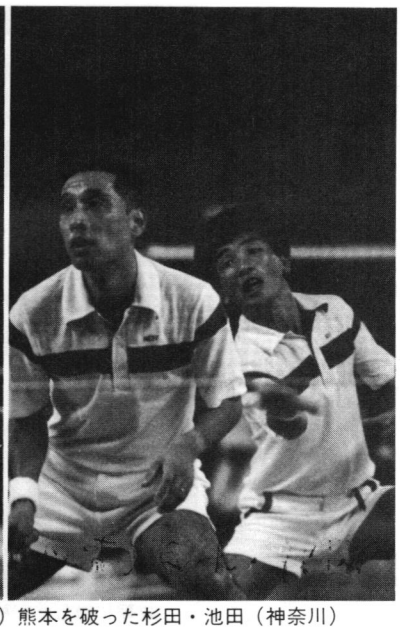
勝因は、まず第一にダブルスに安定した力を発揮、1ゲームも奪われなかったこと。体力の消耗を最小限にくい止め、後半戦にスタミナを貯えることができた。

そして、2、3回戦のトップシングルスで、和田が新鋭・滝川（山梨）、古豪・門間（和歌山）をそれぞれ一蹴したことも見逃せない。

全種目を通じ1ゲームしか落さなかったのは立派、さしずめ省エネ制覇といったところか。

「今年が最後、勝って花を飾りたい」（群馬・今井）気持が先行したのか、今井・栗原組の攻撃力も、厚い壁のような長谷川・舛田組のレシーブを打ち破ることができず、これも5年連続して準優勝。





気合いのはいった藤原・藤上（滋賀）熊本を破った杉田・池田（神奈川）

しかし、引退どころかますます円熟味を見せたのが神奈川・杉田。

新コンビを組む池田との息もピッタリで、教職員大会優勝の工藤・稲津組（熊本）を破り、健在ぶりを示した。

シングルスの池田の活躍とともに、ベスト4進出の原動力となったのは、年齢の限界に挑戦する〝若い血〟の結晶か。

今大会活躍したベテランの藤原、藤上のペアなど、まだまだ「若い者には負けられない」教育者が多いことは、頼もしい限りである。

成年男子

千葉、破壊力で連覇

小島復帰の神奈川、奪還ならず

▼成年男子準々決勝

千葉県 2—0 富山県
田所 大場 2 (15—8 15—9 7—15)
今泉 牧野 0

北海道 2—0 山形県
木村 遠藤 2 (15—7 15—7)
秋庭 丸山 0

神奈川県 2—0 岡山県
小島 菅 2 (15—4 15—8)
藤原 芳上 0

九原 2 (15—0 15—7)
岡田 0

石川県 2—1 大阪府
高橋 2 (15—8 15—7)
藤原 0

米原 0 (12—15 9—15)
和田 松口 2

堂谷内 2 (15—9 7—15 15—8)
松口 1

米谷島 2 (15—6 15—2)
谷島 0

千葉県 2—1 神奈川県
田所 大場 2 (15—6 6—15 15—2)
高橋 菅 1

大場 0 (3—6 6—15 15—10)
小島 2

田所 2 (15—17 14—15 15—10)
菅 0

（千葉県は2連勝2度目）

▼同準決勝

千葉県 2—1 北海道
田所 大場 2 (15—1 15—12)
木村 遠藤 0

大場 0 (6—6 6—15 15—12)
九原 2

田所 2 (15—15 15—8 15—2)
遠藤 0

神奈川県 2—1 石川県
小島 菅 2 (15—7 15—10)
米原 0

高橋 0 (14—13 13—15 17—17)
堂谷内 2

小島 2 (15—15 15—7 15—6)
米 0

▼同3位決定戦

北海道 2—0 石川県
木村 遠藤 2 (15—15 15—4 15—5)
米原 0

九原 2 (15—8 15—4 15—11)
堂谷内 1

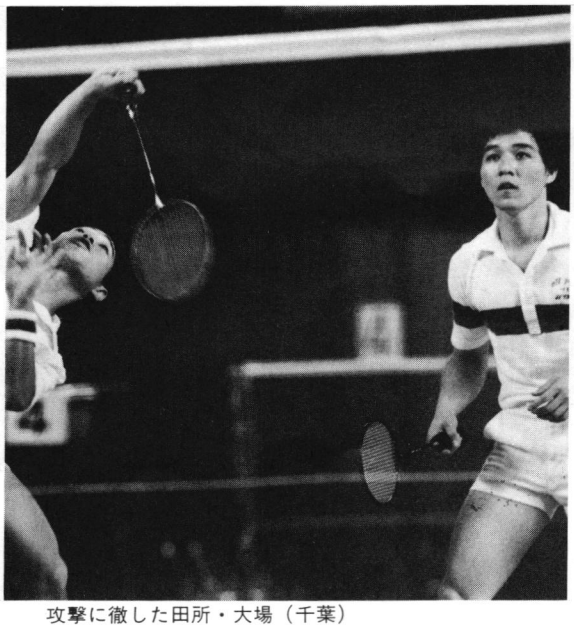
▼同決勝

第1シードにもかかわらず、決勝までに富山、北海道の強豪と顔を合わせた千葉県は、田所・大場組の破壊力で今泉・牧野組（富山）、木村・遠藤組（北海道に競り勝って、つねに有利な試合展開を繰り広げた。

田所の後衛からの豪快なスマッシュと、大場の前衛でのシャトルさばきがコンビネーション鮮やに終始〝先手先手〟と攻め、レシーブ力を誇る富山、北海道ペアを打ち破った。

ダブルスの先勝で優位に立った千葉県は、続くシングルスでも田所が勝負強いところを発揮、準決勝では高校時代（日大山形）のパートナー遠藤に壮烈なスマッシュの合戦に打ち勝つなど、気力あふれるプレーで決勝へ駒を進めた。

これに対して、2年ぶりに小島一平をメンバーに迎えた神奈川は、第一のヤマと思われた2回戦・香川との試合を、ベテラン小島のリードでダブルスに先



攻撃に徹した田所・大場（千葉）

成年女子

意欲充分、栃木初優勝

若さ暴露、大阪連続逸す



大健闘の菅・高橋（神奈川）

勝した後、第一シングルスの高橋がしぶとさでは定評のある日下に逆転勝ちを収める金星を挙げ、幸先よいスタートを切った。

初コンビを組む小島・菅組は、回を追うごとに調子を上げ、準決勝・石川県の善戦にあったものの、余裕を残して決勝進出を果たした。

注目の決勝は、明暗を分けると思われたダブルスに、神奈川は小島を起用せず、シングルスで雌雄を決する〝奇策〟を用いた。

ところが、ダブルスの高橋・菅組の予想以上の健闘で、田所・大場組から2ゲーム目を奪ったあたりは神奈川の上げ潮ムードが充満して異様な雰囲気となった。

しかし、ダブルスに一日の長を見せる田所。大場組は、ファイナル・ゲームで見事にプレッシャーをはねのけ奪取、予想通りの展開となった。

第1シングルスは、神奈川の計算通り小島が貫禄を示してタイとし、勝負は田所対菅の第2シングルスへ持ち込まれた。

ここでも、田所は積極的な攻撃に終始、懸命に粘る菅もタイスコア（第1ゲーム、8—8、10—10、14—14）まで追いつくのがやっと、遂に一度もリードを奪えない苦しさ。

結局、強気強気で押しまくった田所に勝利の女神はほほ笑み、千葉県が2連勝に輝いた。



うまみを見せたが、木村・遠藤（北海道）

▼成年女子準々決勝

大阪府 2—0 新潟県
東海林 原口 2（15—5, 15—11）0 佐野 平野

葛西 2（11—4, 11—3, 11—12）1 平野
岐阜県 2—1 宮崎県

名和 戸田 2（15—4, 11—15, 15—6）1 秦 馬渡

戸田 1（2—11, 11—12, 11—4）2 秦

名和 2（11—4, 11—2）0 馬渡
香川県 2—0 岡山県

平井 2 (18—15 15—3) 0 石田
山田

山田 2 (11—3 11—2 4—11) 1 石田
栃木県

栃木県 2—0 熊本県

日山 2 (15—3 15—4) 0 後藤
日向野 相良

大島 2 (12—9 11—3) 0 後藤

▼同準決勝

大阪府 2—0 岐阜県

東海林 2 (15—3 15—10) 0 名和
原口 戸田

葛西 2 (11—4 11—7) 0 戸田

栃木県 2—0 香川県

日山 2 (17—16 15—5) 0 平井
日向野 山田

大嶌 2 (11—7 5—11 11—3) 1 山田

▼同3位決定戦

香川県 2—0 岐阜県

平井 2 (15—13 15—7) 0 名和
山田 戸田

山田 2 (11—5 11—5) 0 名和

▼同決勝

栃木県 2—1 大阪府

日山 2 (15—2 16—17 15—9) 1 東海林
日向野 原口

大嶌 0 (9—12 1—11) 2 東海林

日山 2 (11—5 11—7) 0 原口

（栃木県は初優勝）

昨年の念願の初優勝の余勢をかつて連覇に挑んだ大阪だったが、栃木との〝若い力対若い力〟の対決に敗れ、今年は栃木が優勝をさらい、来年度国体開催地の意気込みを見せた。

栃木は、3人のメンバーがいずれも1メートル60を楽に越える日向野、日山、大嶌の長身選手を揃え、大阪は、いかにも鍛えられたという感のサントリーの若手勢、東海林、原口、葛西の、それぞれ若さを売り物にするフレッシュな対戦となった。

栃木は、よく打ちよく守る絶好の型を日向野・日山のコンビが維持。

実力互角と思われた準決勝・香川の平井・山田組の追撃をストレートで振りきるなど、エースの役目を充分に果たした。

決勝も、ダブルスをまず取って、勢いに乗じて大嶌か日山のシングルスで1ポイントを挙げようという作戦。

これに対し大阪は、原口、葛西という経験の浅い2人を、東海林の力でどこまでカバーできるか、決勝までをすべてストレートで勝ち進みはしたが、一沫の不安は隠せなかった。

案の定、大阪はダブルスに続いて東海林をトップに起用、背水の陣で決勝に臨んだ。

しかし、メンバーにゆとりのある栃木は、ダブルスの試合ぶりにも落ち着きが見られ、激しい長いラリーの応酬をしのぎ、スマッシュに角度と変化のない大阪を切り返す守備力を見せた。

東海林が踏ん張って、シングルスを奪い返し、日山対原口に両チームの命運が託されることになった。

原口は、若手らしいキビキビした動きで健闘、積極的に日山を追いつめるが、最後のツメがあと一歩。

よく動くのがかってアダとなり、ホーム・ポジションでも無駄なフットワーク、つまり相手の打つ瞬間には静止していなければならない原則を忘れたため、せっかくの押し気味のラリーを、一発で逆転されるというケースがしばしばみうけられた。

スタートの遅れはバドミントンにおいて致命傷である。

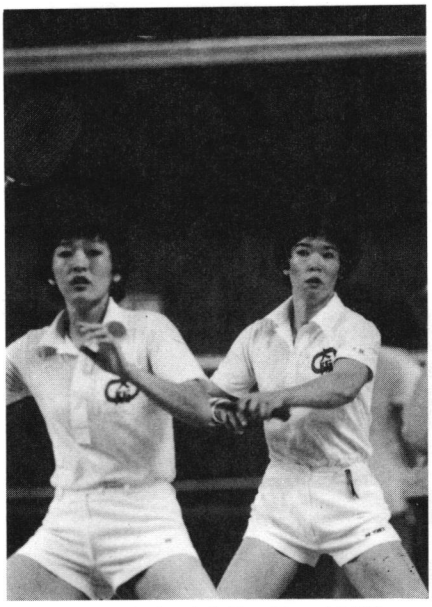
逆をつき、逆をつかれないようにするのがバドミントンなら、逆をつかれた場合の、もしくは逆をつかれないホーム・ポジションでの体勢づくりが、もっと肝要ではないだろうか。

一生懸命にシャトルを追う気持、必死で勝とうとする気持をカラ回りさせないために——。

また、2日目の会場を熱狂させたのが地元・宮崎の健闘。

ダブルス、第1シングルスともファイナル・ゲームにもつれ込む接戦に観衆の目は完全に釘づけ、勝ち名のりこそ挙げることはできなかったが、大会を盛り上げるのに充分な善戦だった。


大型ペアの日向野・日山（栃木）


今後に期待、東海林・原口（大阪）

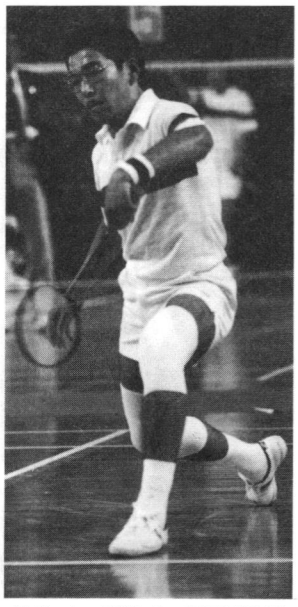
少年男子

熊本、激戦を制す

香川〝無念〟、栃木〝不運〟

▼少年男子準々決勝

熊本県	2	15 15	15 3 15	2	15 15	15 15	2	桜井
石川県	1	17 15	17 15 10	1	12 1	14 11	1	場上
坂井	2	15 15	15 15	0	15 15	15 15	2	権藤
村本	0	7 8	8 12	2	7 8	7 11	0	藤井
宮城県	2	15 15	15 15	0	15 15	15 15	2	井上
奈良県	1	12 1	12 3	2	8 12	8 15	1	村本
坂井	0	8 15	15 15	2	15 15	15 15	2	権藤
村本	2	15 15	15 15	0	15 15	15 15	2	藤井
貴田	2	15 15	15 15	0	15 15	15 15	2	桜場
古賀	0	9 15	15 15	2	15 15	14 11	1	井上
桜場	2	15 18	15 15	2	15 15	15 15	2	佐藤
古賀	0	12 16	3 8	0	2 6	4 15	2	貴田
香川県	2	15 15	15 6 15	1	15 15	15 15	2	桜場
宮崎県	0	3 8	2 15 4	2	6 15	10 10	0	井上
岡野	2	15 15	15 15	0	15 15	15 15	2	栃木県
小西	0	3 8	2 15 4	2	6 15	10 10	0	大島
小村	0	8 15	15 15	2	15 15	15 15	2	栃木県
佐藤	2	15 15	15 15	0	15 15	15 15	2	小野口
岐阜県	0	10 10	4 15 16	1	4 17	5 16	1	桜場
和泉	2	15 15	15 15	0	15 15	15 15	2	大島
伊藤	1	2 15 4	15 6 15	2	15 13	15 6	0	岡野
戸崎守	0	15 10	15 15	2	10 15	11 15	2	小西



サポーターが痛々しい馬場（栃木）

▼同準決勝

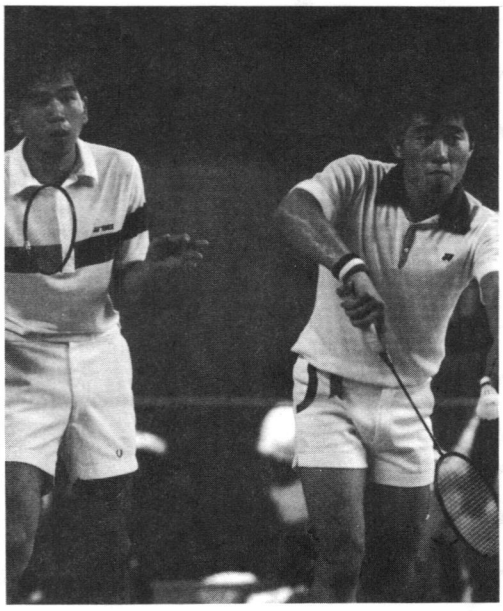
熊本県	2	15 15	17 15 8	2	15 15	18 15 12	2	馬場
宮城県	0	2 6	15 8	0	17 1	17 1 15	1	戸崎友
香川県	2	18 17	15 15	0	15 15	15 15	2	桜場
栃木県	1	4 15	4 15	2	15 15	15 15	2	井上
岡野	2	15 18	15 15	0	15 15	15 15	2	権藤
小野口	0	17 4	13 6	2	10 15	11 15	2	小西
小西	0	10 11	15 6	2	15 15	15 15	2	岡野
小野口	2	15 15	13 15 11	1	15 17	15 15	2	井上
佐藤	0	10 3	12 15	2	2 15	15 15	2	権藤
岡野	1	15 13 15	15 15	0	0	0	0	棄権
小西	0	12 15 11	15 15	2	15 15	15 15	2	井上

▼同3位決定戦

栃木県	2	15 14 17	16 11 15	0	15 15	15 15	2	大島
宮城県	1	4 17 16	17 15	2	13 6	10 15	0	小西
桜場	2	16 17	15	0	15 15	15 15	2	小野口
井上	0	11 15	16 17	2	6 15	11 15	2	大島

▼同決勝

小野口	2	15 15	15 15	0	15 15	15 15	2	井上
佐藤	0	10 3	12 15	2	2 15	15 15	2	権藤
岡野	1	15 13 15	15 15	0	0	0	0	棄権
小西	0	12 15 11	15 15	2	15 15	15 15	2	井上



ガッツの塊、権藤・村上（熊本）

（熊本県は2連勝2度目）

戦前から、インターハイ団体優勝メンバーで固めた栃木、単複優勝の権藤を擁する熊本、複2位の岡野、小西が主力の香川が、し烈な優勝争いを展開するものと予想された。

が、いざフタを開けてみると、

少年女子

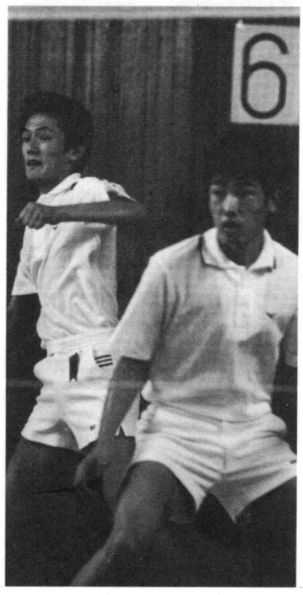
〝完璧〟大阪11度目

新潟、〝打倒大阪〟今年は逃す

伏兵・石川、宮城、岐阜の台頭により、初戦から予想以上の激しいツバ競り合いが繰り広げられた。

まず、第1シードの熊本をおびやかしたのが石川。

坂井（金沢市立工）、村本（七尾農）の急造ペアが、尻上がりに調子を上げ、権藤・村上組に逆転勝ちを収め注目を集めた。



あと一歩、岡野・小西（香川）

シングルスの実績から（2人ともインターハイ・シングルスベスト4）波乱を思わせたが、2年生・井上が頑張ってくい止め、権藤も追いすがる坂井を振り切って難を逃がれた。

宮城対奈良は、最後まで予断を許さない好ゲームになったが、わずかな粘りの差で奈良に軍配。

岐阜は、第1シングルスの戸崎（守）が、膝の故障で苦しむ馬場に、あと1ポイントに迫る気勢をみせた。

そして、この試合で馬場の膝は最悪の状態となり以後の試合を欠場、香川に敗れて3位にとどまる結果となった。

しかし、来年度開催へ向けて大きな希望を持たらしたのは2年生・大島。

大柄でしかも柔軟な体から鋭角的なスマッシュを武器に、単複に馬場の穴を埋めるに充分な働きをみせた。

熊本は、初戦につまずいたものの、例によって権藤の無類の勝負強さで、栄冠へひた走った。

決勝のダブルスでは、ファイナル・ゲーム、1―10と大きくリードを奪われ勝負あったかと思われたのを、信じられないような逆転劇を演じるなど、勝負への執拗なまでの気迫を再現した。

声を出す、自らの顔を叩く、祈る、踊る、それらの動作のひとつひとつに、会場が次第に引き込まれていく。

勝敗を度外視した興奮が場内に溢れ、インターハイと同様、宮崎の地も権藤の活躍で幕を閉じた。

▼少年女子準々決勝

新潟県	2―0		山形県
藤井	15―15		佐藤
遠藤2	7―4		阿部0
遠藤2	12―11		庄司0
千葉県	2―0		宮崎県
上久保	15―7		小島
小菅2	4―7		稲留0

上久保2	11―12		稲留0
	2―11		
熊本県	2―1		北海道
川添	15―15		桝田
高峯2	8―8		竹川0
陣内	11―4		桝田
高峯2	12―11		藤本2
	11―2		
	3―0		
			桝田

▼同準決勝

新潟県	2―0		千葉県
大阪府	2―0		高知県
北田	15―15		高鴨
冨田2	4―3		清藤0
植田2	11―6		高鴨
	8―11		
	11―7		
	1		

藤井	15―11		上久保
遠藤2	8―11		小菅0
遠藤2	11―11		上久保
	1―2		0
大阪府	2―0		熊本県
北田	18―16		高峯
冨田2	7―16		陣内0

▼同3位決定戦

植田2	7―11		高峯
	11―3		
	11―1		
	1		
熊本県	2―0		千葉県
高峯	15―11		上久保
陣内2	15―12		小菅0



迫力充分の北田・冨田（大阪）

陣内 2 — 11 11 7
小菅 1 — 11 1 11

▼同決勝

大阪府 2—0 新潟県

北田 15 15 — 藤井 5
冨田 15 9 — 遠藤 9
植田 11 11 — 遠藤 8
2 — 0

（大阪府は11度目）

大阪府の圧勝は予想されたものの、終って振り返るとまさにパーフェクト。

第2シングルスに控える、北田の登場すら実現しなかった。

インターハイ2年連続三冠王を達成した北田の存在は大きく、計り難いほどの威圧感となって、相手チームに重くのしかかっていた。

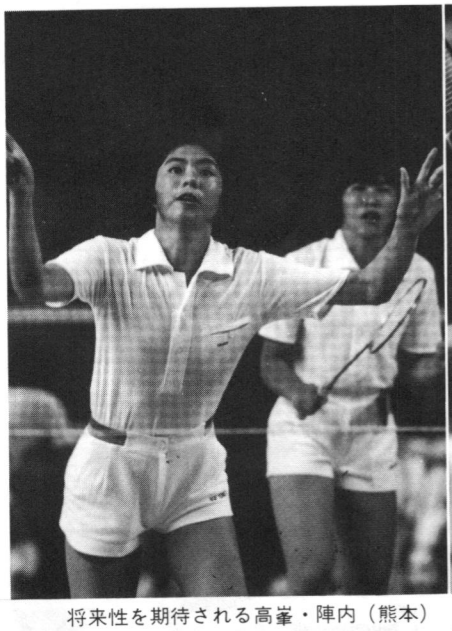
そして、北田もその期待に応えるかのように、ときにはバネを生かした強烈なジャンプスマッシュ、ときには高校生ばなれしなラケットワークで難球を処理するなど〝10年に1人〟の偉材ぶりをいかんなく発揮していた。

北田の陰に隠れて目立たなかったが植田も粘り強いプレーで全勝し、小柄ながらトップシングルスの重責を見事に果たした。まだ荒削りの長身・冨田とともに大いに賞讃されよう。

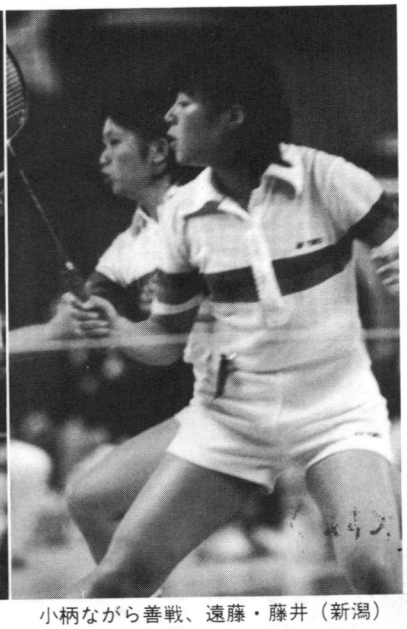
昨年、大試合を演じて〝打倒大阪〟を果たした新潟は、藤井・遠藤の両輪が頑張って決勝へ進出、ダブルスに伝統の〝うまさ〟を発揮したが、力強さの点でいま一歩、善戦空しく連続制覇を逸した。

躍進を続ける注目の熊本は、2年・高峯、1年・陣内が活躍、3位にくい込む健闘をみせた。

久しぶりの〝スター候補生〟といわれる陣内は、早くも会場でサインをせがまれるなど人気の的、攻撃を主体にした〝ガムシャラ〟なプレーがどんな成長をするか楽しみな存在である。



将来性を期待される高峯・陣内（熊本）



小柄ながら善戦、遠藤・藤井（新潟）

スポーツの父に感謝

〝スポーツの父〟に感謝の気持を―。日本バドミントン協会副会長の小口政雄氏（81）＝東京＝は26日、松江市寺町の久成寺を訪ね、松江市が生んだ近代スポーツの父と言われる岸清一氏の墓参りをした。「立派な体育館を残し、日体協が今あるのは岸先生のおかげです。」という小口氏。花を墓に供えて手を合わせて……「四角い顔をしたおだやかな人」という印象があるといい、学生時代に一、二度会っただけなのに今でもはっきり思い出せるという。

――8月27日付、山陰中央新報より

（注、故岸清一氏は、日本体育協会第2代会長）

ふるさと国体こぼればなし

栃木県バドミントン協会
近藤　満

友　情

バドミントン競技は、ご存知西都市でのこと。宿泊係のKさんの親切なこと。到着して宿舎へ案内してくださったまでは、どこでもあること。

ひと休みしたら時間があるようだからと、西都原古墳群の案内をかって出てくれた。以来、毎日顔を合わせる、同行のS君とすっかり意気投合して、一夜飲み明かし、宿舎にもどるや、お互いの人柄をほめ合い、酒量をたたえ合うことしきり。

とんだところで友人ができたと喜び合うさまは、第三者の私が見ていても、大変ほほえましいものであった。

監督さん、一瞬まつ青

大会第二日、少年男子準決勝戦、T県対K県の第1シングルスにB君とO君が出場。

インターハイでお互いに実力を知り合っている両君の攻防は火花が散るような激しさで、気の抜けないゲームを展開。

第1ゲームをO君がとる。B君がヒザを痛めているため、左右への動きがインターハイの時に比べると、かなり遅い。

ゲームなかば、O君のクロスのプッシュでB君はスリップし、痛めている右ヒザから転倒した。ベンチの監督は一瞬ハッとして、腰を浮かせ、痛みをこらえるB君に声をかける。当の本人よりも、監督のほうが、顔色も青ざめて見えた。われわれもこれで棄権かと思ったが、B君は気をとりなおして、ゲーム再開。結果はB君の負けに終わったが、O君も元気なB君とゲームをしたかっただろうと思う。

B君のケガの癒える日の早からんことを祈る。

迷解説者に混乱

会場の観客の中には、次回開催県の視察員、応援の人たちも多い。そしてチビッ子たち。また、選手の宿が民宿のため、宿の人たちが差入れ持参で応援にきてくれる。

宿の人たちが試合の流れやルール、点数を選手たちに聞いているうちはまだよかったが、選手が試合のためコートに向かい、その後の



全国理事長会議会場になった西都原古墳群

空いた席に座った人たちにゲームのことを聞きだした。

しかし、聞かれた人が他の競技の人で、バドミントンに詳しくなかったため、その聞かれた人は、また自分のとなりの人に聞いた。すると聞かれた人は、自分が見ていた別のコートのプレーを説明したために、???

これでは混乱するはず。宿の人は何が何だかわからなくなってしまい、ただ点数だけを見て一喜一憂するだけになってしまった。

コートの外で激戦

W県のM君とT県のS君とは、大学時代の同級生。久し振りに再会して旧交を暖めているうちはよかったが、話が大学時代の思い出話となり、ある一点で話が沸騰。

「あのときはこうだった」

「いや、ちがう、こうだった」

とかなりエキサイトして、両者ゆずらず、あまりの激しいやりとりに、同じテントの中で休んでいた他県の人たちもびっくりしてしまうほど。

周囲の目を感じたとたんにシラけた二人は、

「ばかだなあ、オレたちは。こんなささいなことでけんかするなんて」

というS君の声で、今度は大笑い。

またまた周囲の人たちは、あきれるやら、気が抜けるやら……。

そして二人は、夜に別席でさらに旧交を暖める約束をしていた。

来月号は12月3日発行!!

バドミントン・ワールド カレンダー 1980

予約受付中

12月1日発行・900円

すっかりおなじみとなりました〝バドミントン・ワールド・カレンダー〟を今年も、12月1日に発行いたします。

1980年版カレンダーは、机の上にもおけるように、A3判とし、カラーで作成いたします。定価は900円ですが、予約特価800円（11月30日消印有効）といたします。送料は事務簡素化をはかるため、下記のとおり全国均一といたします。

〈送料〉 1部＝300円、3部まで400円、6部まで500円、10部まで600円、11部以上700円といたします。

〈お申込み方法〉 本誌巻末とじ込みの振替用紙の通信欄に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局から代金をお振り込みください。

日本バドミントン協会出版局

昭和54年度全日本総合選手権大会＝栄冠のゆくえを占う

銭谷×土田の一騎打ちか…　女子は混とん…

権藤・北田のフレッシュ・パワーが楽しみ

ALL-JAPAN '79

本年度の個人の最高位を争う全日本総合選手権大会が、11月28日の開会式に引きつづき、29日から12月2日まで開かれる。

今年は、永年の懸案であり、選手・ファンからも強い要望のあった〝全日程同一会場〟での開催へ一歩近づいた。

メイン会場は当然〝バドミントンのヒノキ舞台〟東京国立競技場代々木第二体育館である。

原稿段階ではエントリーが完了しておらず、詳しい予想はむずかしいが、各種目のみどころを簡単に追ってみよう。

◆男子シングルス

今年の各大会の結果からみて、最右翼は銭谷（河崎ラケット）、対抗が土田（電電東京）というここ数年来のパターンがくり返されそうである。

この二人にベテラン小島（RS元町）がからみ、新人・若手では西山（中大）、坂本（日大）といったところの活躍を期待したい。

長谷川（ヨネックス）の伸びにも注目したいが、ファイター権藤（九州学院高）のガッツも見逃せない。

◆女子シングルス

すっかり復調した感じの湯木（河崎ラケット）と徳田（サントリー）の争い。近藤（河崎ラケット）は、どうも最近は調子が上向きにならず、集中力もつづかないようであるが、ここはオールジャパンにふさわしいプレーを期待したい。

そして大型新人北田（四条畷学園高）は、組合せさえよければ十分ベスト4が期待できる。ミスの少ないプレーと、女子にはめずらしい攻撃的なドリブンクリアーで、湯木、徳田といえども安易なプレーは許されないであろう。

米倉（電電東京）も、ファイナルゲームになっても集中力を失わなければ、上位を確実にねらえる。

◆男子ダブルス

飯野・土田（ヨネックス・電電東京）の指定席か。池田・梅野尾（電電東京・ヨネックス）では、すでにそのスピード、パワーで勝利は遠いといえよう。学生界の富田・酒井（法大）に期待したいが、ミスが多すぎる点と、コンビネーションのくずれが不安である。

むしろ田所・大場（電電東京・ヨネックス）が、最近はすっかり安定してきており、ダークホース的存在で、そのプレーは優勝も夢ではない。

◆女子ダブルス

徳田・高田（サントリー）の楽勝か。マスターズ・トーナメント（第1回世界オープン）では2位に甘んじたとはいえ、このペアのカベは厚く、国内ではやはり第一人者である。

対抗としては社会人大会優勝の土田・原田（ヨネックス・日女体大OG）があげられる。この二人はじつに呼吸が合っており、故障さえなければ大いに期待できる。

若手では昨年もベスト8にはいり、今年のインカレ・チャンピオン河村・平（四条畷学園短大）ががんばるだろう。小柄なコンビだがスピードもあり、ツボにはいればかなり強いスマッシュがくる。

高校チャンピオンの北田・富田（四条畷学園校）は対照的に大型コンビで、二人とも170センチ近いという。

社会人のプレーにまどわされず、自分たちのペースが守れれば、かなりやれそうである。

◆混合ダブルス

第一線に復帰した梅野尾夫人（ヨネックス）が夫君と組んで栄冠をねらう。

土田夫人（ヨネックス）もおしどりコンビで出場すれば、これは近年にない激戦が予想される。

そしてアキレス腱断裂から立ち直った中井（河崎ラケット）と千葉（同）のコンビも、十分優勝圏内にある。

以上が簡単な予想であるが、最終エントリーが決まらない時点であり、的を射てない点もあるが、会場も申し分なく、各コートでの熱戦を期待したい。

入場料は11月28日から30日までは無料。12月1日と2日は左記のとおり。

大人　1000円
中高生　500円
小学生　無料

競技時間等についてのお問合せは日本バドミントン協会（03―467―3111）まで。

YONEX®

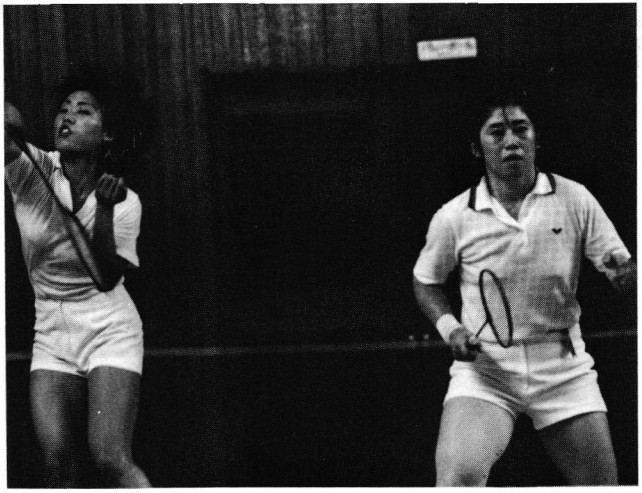
ボディの美しさから出発した、主張のあるスポーツウエア。
単にかたちだけに流れず、単に機能だけに片よらない、新しい発想のスポーツウエアの誕生です。デザインは、あの三宅一生。このほかヨネックスには、オリジナルなスポーツウエアや、日本バドミントン協会推薦のスポーツウエアをずらりそろえています。

プレイヤーの声から、使いやすさをカタチにしたバッグ達。
ヨネックスのスポーツバッグの大特徴は、それぞれのデザインに、用途別にセブン・スリー・ワンと3種類あること。長期遠征用・短期遠征用・当日大会用と使いわけることができます。バッグにT.P.O.を持ちこむなんて、ヨネックスならではのアイデアとは思いませんか。ともかく、ヨネックスでかためると強い。

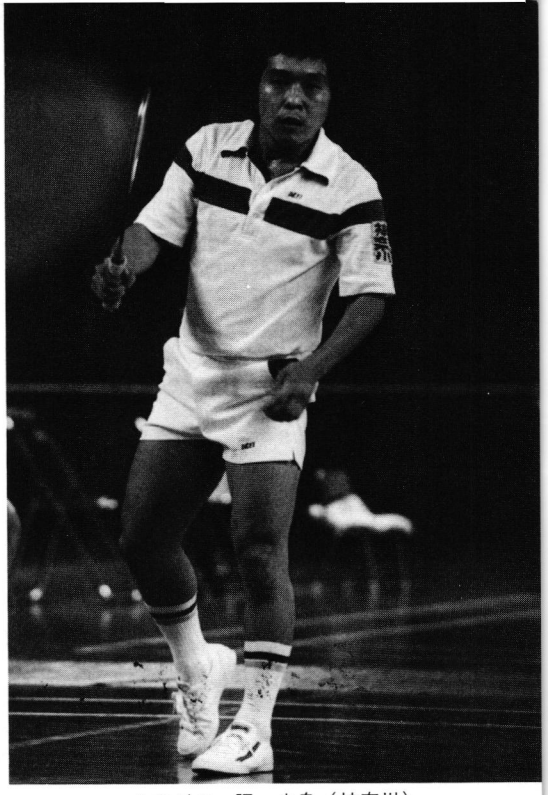
ヨネックスを着る。
ヨネックスを持つ。
勝てそうだぞ。

Flemming Delfs
フレミング・デルフス（デンマーク）



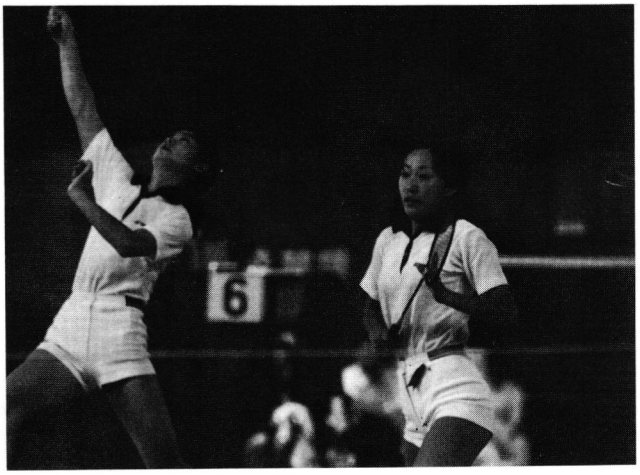


ちょっと元気のなかった平井・山田（香川）



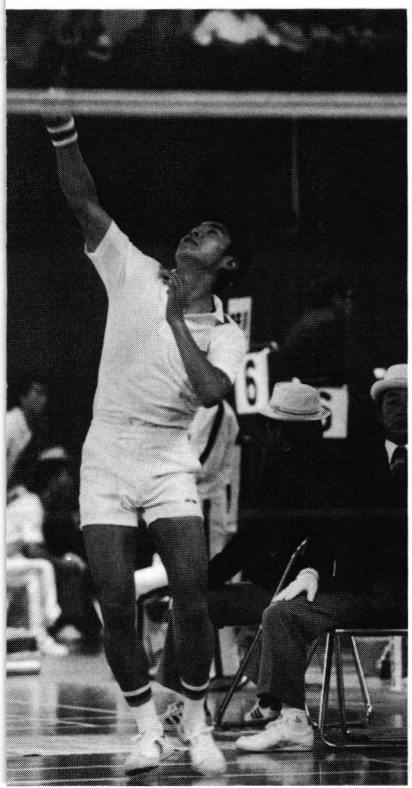
さすがの一語、小島（神奈川）

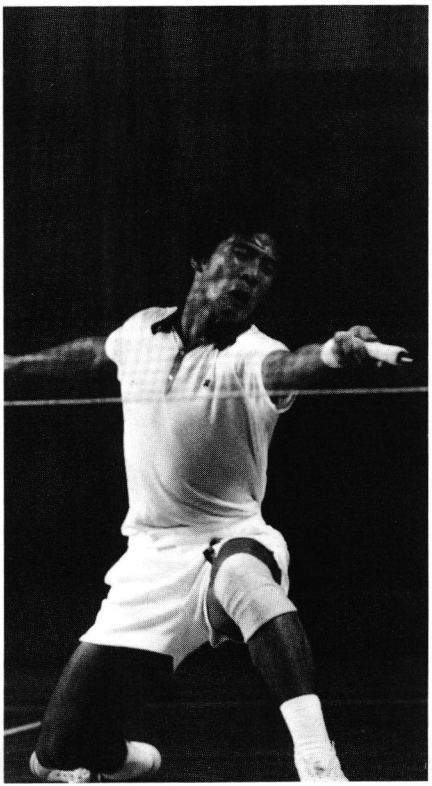
はつらつとした動きの上久保・小菅（千葉）



国体で活躍した選手たち

来年が楽しみな大島（左・栃木）、井上（右・熊本）







待望の1勝をあげた地元の秦

kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



選択の時代は終った!

kawasaki Badminton

数あるバドミントン・ラケットの中
カワサキ製品は
ひとり群を抜いた。永い独走が始まる。





グラファイトシリーズ
世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス
グラファイトフレーム　グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円

FULL CARBON SHAFT RACKET

B-8500 Carbonex8

カーボネックス・エイト
フルカーボンシャフト

色……イエロー・オレンジ・グリーン

重量表示　U(100g～95g)・2-U(95g～90g)

YONEX®



ラケットの軽さも遂にここまで来た。
ラケットの重さの壁は 100g、それを破ることはとうていムリだろうと考えられていました。その不可能にヨネックスはあえて挑戦。そして、世界で始めて、見事100g 以下の超軽量ラケットを実現しました。まさに世界記録です。

これはフルカーボンシャフトラケット。
ウエイトを下げると、ラケットがひ弱になり、パワーが落ちるといわれていた常識を、ヨネックスがくつがえしました。フレームに特殊アルミ合金、シャフトにフルカーボンを採用することにより、強度もパワーもグレードアップ。

バドミントンプレイがまた進歩する。
ラケットの軽さもここまでくると、ラケットが腕そのものになってきて、プレイそのものを、変えてしまいます。よりシャープに、よりパワフルに、攻撃型のプレイへと。いま、このヒーローの登場で、世界は沸きに沸いています。

カーボンのヒーロー。







オールカーボンシャフトとウッドフレームによる

世界初の超軽量

XL級 105g〜109g

コンピュータとキャリアが生み出した
100％カーボン・ロングテーパーシャフト
軽さと強さをかねそなえた
スーパーラケットの登場！

Carbon Slugfest

カーボンスラッグフェスト　B-85・B-80

日本バドミントン協会推奨

■プレーヤー待望のパーフェクトラケット完成

より高度に、そして多彩になっていくバドミントンのプレーテクニック。そのすべてのプレーに一本のラケットがパーフェクトに対応します。ゴーセンが開発した100％カーボン・ロングテーパーシャフト『カーボン・スラッグフェストB-85・B-80』。プレーヤーの強い要望に応えた理想のラケットの登場です。

■電子頭脳が答えた理想の構造

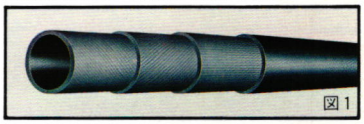


図1

20世紀の科学が生んだ最高のラケット素材《カーボン》。このカーボン繊維を、ラケットの生命といわれるシャフト部分に使用。この素材特性をいちばん効果的に発揮させるため、図①のように方向の異なる繊維を3層に組み合わせました。この構造図式は、理想のラケットを創り出すという前提のもとに、コンピュータがはじき出した答えです。

さらにもう一歩理想に近ずくため、この構造によるシャフトのロングテーパー化をコンピュータは指示しました。

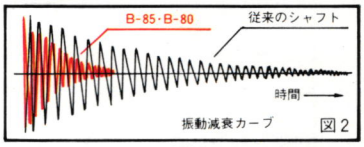


図2

最良の理論——これを製品として実現させたのはゴーセンの技術力。カーボン究極の特性を安定して確保し、世界でも類を見ない100％カーボン・ロングテーパーシャフト化に成功しました。

■カーボン・ラケットの決定版

細部にわたる測定テスト。このB-85・B-80はすべての点で他のカーボン・ラケットをしのぎました。カーボンの特性をこれほど完璧にいかしきったラケットは見当りません。



■B-85・B-80の特色

- 超軽量XL級(105g〜109g)
- 高反発／高弾性（強く、鋭い打球）
- 高強度(優れた耐久性)
- 迅速な振動減衰性（打球後のラケットの安定。図②参照）
- 高応答性(打球の手応え)まさに長所総づかみ。カーボン・ラケットの決定版！堂々と登場です。

カーボンスラッグフェスト

B-85(黒)・B-80(白) ¥7,500

- バンブー・ウッド合板
- 100％カーボン・ロングテーパーシャフト
- カバー付



GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎(03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎(0762)47-0200(代)



反発の創造。

ゴーセンバド・ガット●ウインテックスシリーズ / ハイ・シープシリーズ

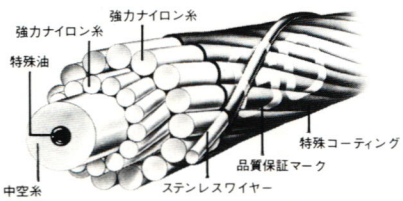
世界に誇るゴーセンのガット技術。

世界15か国でパテントを取得！

世界的なガットスペシャリストGOSEN。その証明は世界15か国におよぶパテントの取得。日本はもとより世界各地のファンを魅了したガットの数々。それはまさにゴーセンならではの技術における《完成度の高さ》を示すものです。

■中空糸・特殊油入り(PAT. 1106964)

糸の芯部分を空洞に。この中空部分が打球に鋭い反発を促進。また打球音・打球感も抜群なものにします。この中空糸の中に特殊油を注入。この油がガット表面に粘着し、油まくがガットを外気（乾燥、湿気など）から守り、ガットコンディションを完全キープ。



■ステンレスワイヤー巻き付け(PAT. 1212170)

ガットにワイヤーを巻き付け。ワイヤーは一定間かくでらせん状に糸に食い込み、ガットを強く張った状態に固定。ガットの伸びやゆるみを防止。強い打球を促進。

このように特許を取った技術の他にもゴーセンは●**カーボン混入**●**ゲージの超細化**など他にはマネのできない技術でプレーの向上に貢献しています。

Wintex WIRE ウインテックス・ワイヤー

No.1900W……¥800 (10m・ゲージ0.85㎜)
●超強力糸●中空・特殊油入り
●ステンレスワイヤー巻き付け

ゴーセンの技術ノウハウをすべて傾注。スーパーガットとして仕上げました。中空・特殊油・ワイヤーの効果がそれぞれに相乗して、抜群の反発力を生み出します。同時にパワーとスピードにあふれた打球をも可能にし、まさにオールマイティ。多様化するバドミントンのプレーテクニックにみごとに対応できるガットです。

油・ワイヤーにより乾燥や湿気もシャットアウト。常にベストのガットコンディションでプレーにのぞめます。



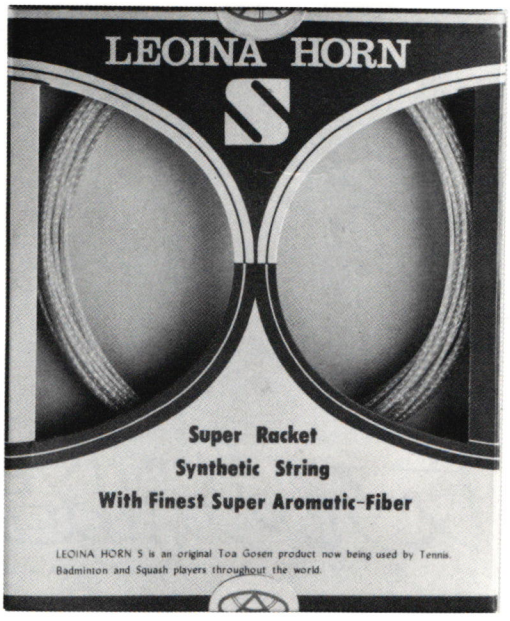
※類似品にはくれぐれもご注意ください。

GOSEN
本　　社●〒540 大阪市東区農後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区雷前4-14-2　☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎ (0762)47-0200(代)



RACKET BADMINTON STRINGS

世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658　神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話　神戸　078　(441)　2001(代)～5番

IMELDA WIGOENO

しなやかにシャトルを追う イメルダ・ウィジョノ

冷静でしかも繊細なイメルダは、まさに完成されたダブルスプレーヤーである。

彼女のバックハンド・サービスは、まるでロボットが機械的に送り出すように、いつも同じ軌道を通る正確さをもっている。しかし、ロボットは、とてもイメルダほど魅力的にはなれない。

そのネットプレーは羽根のようにやさしいと同時に、ハンマーのような力強さがある。

イメルダは銀行に勤務している。しかし、インドネシアでは、彼女のようなスターは特別のはからいを受けている。

大きな試合前は、ジャカルタの強い日射しが照りつける前の早朝2時間、トレーニングをつづける。そして帳簿とお金にかこまれた仕事が終えると、2時間から3時間のゲーム練習に汗を流す。このときは、普通のお嬢さんから、国民的ヒロインに変身する。

インドネシアでは、試合会場に向かうときには、バトカーがサイレンをとどろかせながら先導してくれるし、その会場には、大声でおしゃべりをしたり、金切声をはりあげる多勢の観衆がつめかけているのだ。

ダブルスでイメルダは理想的なパートナーを得ている。それは体育学校の生徒のベラワティである。ベラワティはその長身を生かしてコートにおおいかぶさり、端正なイメルダは冷静な目で神経をとぎすますのである。

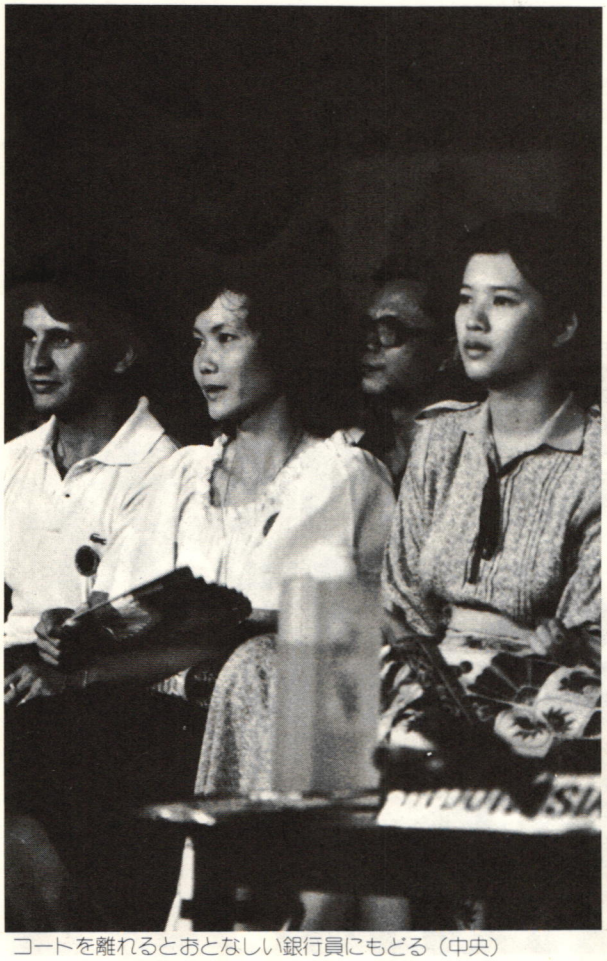
混合ダブルスでも同じようにすばらしいパートナーに恵まれている。イメルダとぴったりイキの合ったクリスチャンは、めったにミスをしないし、まるでロードローラーのように相手を押しつぶしていくのだ。クリスチャンは攻撃のときには、すばらしいジャンプ・スマッシュをみせ、ネットぎわへ、サイドへ、そしてバックコートへと、めまぐるしくイメルダとのすばらしいコンビネーションをみせる。

今年の3月に、このすぐれたペアは大きなショックを全英選手権に与えた。しかし、スポットライトを浴びながら、トロフィーと花たばとシャンパンをかかえ、コートを離れていくイメルダの感激した表情は、会場のだれよりもすばらしかった。

イギリスの〝指定席〟のようだった混合ダブルスの王座に、彼女とクリスチャンがついたわけだが、来年の3月にも同じように勝利をもう一度手にすることができるかどうか、今から楽しみであるし、そのプレーはまちがいなく注目に値するものになるはずだ。

⊙イメルダ・ウィジョノは、今年の全英選手権でベラワティ・ウィハルジョと組んで女子ダブルスに、クリスチャン・ハディナタと組んで混合ダブルスにそれぞれ優勝した。

（「バドミントン」10月号から要訳）



コートを離れるとおとなしい銀行員にもどる（中央）

◆第１回日本バドミントン・リーグを展望する◆

実力伯仲の男子４強

女子はサントリー優勢

台風の目になるか学生選抜チーム

バドミントン・ファン待望の日本リーグがいよいよ来たる12月8日から始まる。

2ダブルス1シングルスという形式での対抗戦で覇をきそうわけだが、単複に兼ねて出場できないというルールのため、選手起用の手腕も非常に大きなウエイトをしめることになろう。

そこで各チームのメンバーをみながら、第一週（12月8日、9日・東京国立競技場代々木第二体育館）のみどころをさぐってみよう。

◆12月8日▽男子の部

河崎ラケット×高岡市役所

河崎には切り札・銭谷がいるが、ダブルスの起用がむずかしいところ。

アキレス腱もすっかり回復したテクニシャン中井のプレーに期待したいところ。ムラッ気を克服すれば強力な戦力となる。

今井・斉藤のコンビはイキもぴったりだが、練習量は十分かどうか。そして、銭谷をシングルスに使えば、ダブルスに角田（かくた）を起用することになろうが、大試合の経験が少ないだけに、ここらあたりが河崎のポイントとなるかも知れない。

一方の高岡は、今泉を軸に、米沢、牧野、宮林、そしてベテランの河村が健在。さらに北陸コカコーラから補強した米（よね）を戦力に加えている。

今泉・牧野でコンビを組めば、まず手固く1ポイントをあげられよう。やはり河崎同様、第2ダブルスの出来がカギを握ることになる。

オーダーはランク順のルールだから、どちらも第2ダブルスに主眼をおくはずである。

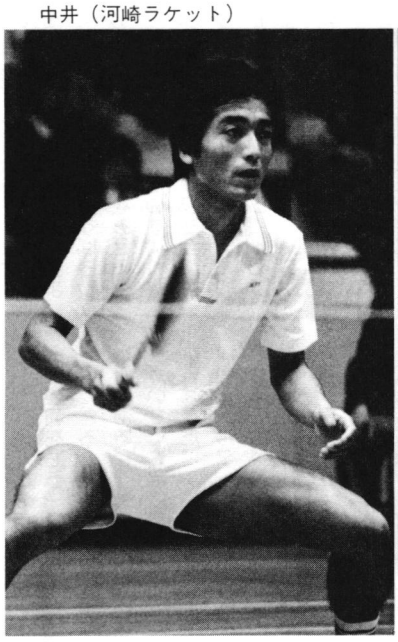
中井が団体戦に燃え、うまくリードできれば河崎有利だが、ベテラン河村あたりがひとふんばりすれば高岡にも勝機十分である。

▼電電東京×ヨネックススポーツ

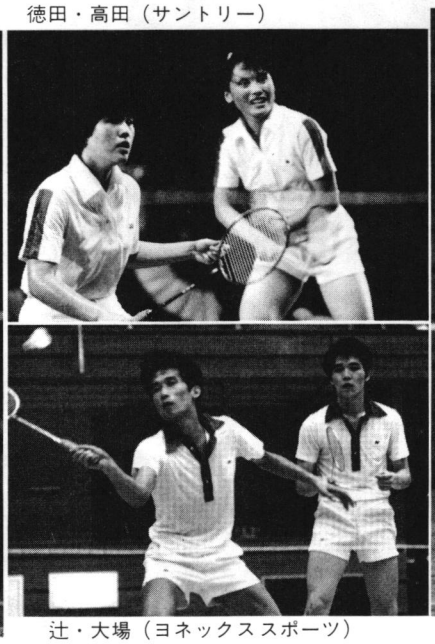
今年の全日本実業団決勝と同じ顔合せだが、試合形式も異なるため、両チームともオーダーに頭を痛めることだろう。

電電としては、安定したシングルスをみせる土田と、池田・尾崎組のダブルスで確実にポイントをあげたいところだが、ヨネックスの梅野尾・飯野組が好調時のプレーに戻っていれば、池田・尾崎といえども、全く楽観は許されなくなる。

梅野尾・飯野としては、今年

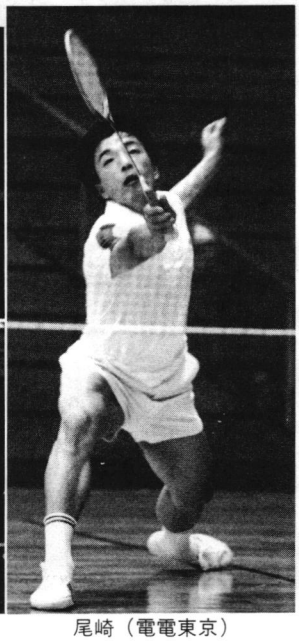


中井（河崎ラケット）

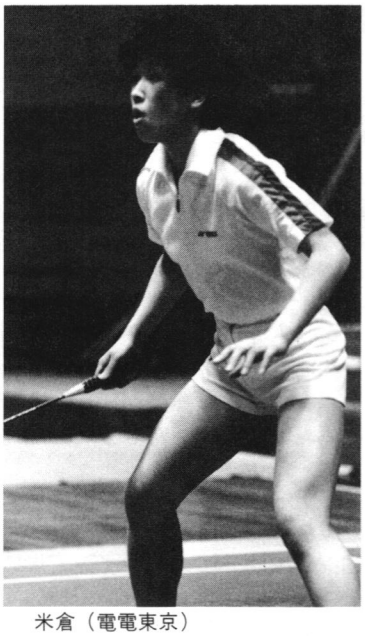


徳田・高田（サントリー）

辻・大場（ヨネックススポーツ）



尾崎（電電東京）


米倉（電電東京）


高岸・川島（東女体大）


河村・平（四条畷短大）

は不本意な内容が続いているだけに、この日本リーグには好調のピークをもってくるよう、十二分の調整をつむはずである。

第2ダブルスには、電電は田所のパートナーに苦しむだろう。一方のヨネックスは、辻・長谷川でもよし、大場・後藤でもよし、どちらでも、電電・土田がダブルスに登場しないかぎり、第2ダブルスはヨネックスが握ることになろう。

この対戦では、なんといっても第1ダブルスに勝敗の分れ目がかかっている。

◆12月8日▽女子の部
サントリー×全日本学生

徳田、高田、谷、秋本、東海林の実力派をそろえたサントリーに、若さが売り物の学生がどこまで食い下がるかといったところ。

インカレ・チャンピオンの石田、平・河村組、ランナーアップの高岸、高岸・川島組が主力となるが、開き直りをみせて、捨て身でぶつかれば面白い展開も期待できるであろう。

日本電装×全日本学生

電装の実力が未知数であるが、来年へつなぐ善戦を期待する。

◆12月9日▽男子の部
ヨネックススポーツ×高岡市役所

高岡のダブルスがんばれば、ひと波乱あるかも知れないが、牧野にひところの冴えがなくなっているのが気にかかる。

電電東京×全日本学生

堅城を誇る電電に学生の若さがどこまで通じるか。

主力は西山、宮森、浅沼のシングルスと、富田・酒井のダブルスになると思われるが、2複1単に、どのように選手を配するか。混成チームだけにコンビネーションに不安がある反面、思いがけない力が出ることも考えられる。

卒業試験をひかえてオフにはいってしまう4年生が多いだけに、コンディションづくりに失敗すると一方的な結果に終わってしまう可能性も強い。

◆12月9日▽女子の部
サントリー×日本電装

勝敗にこだわらない電装チームの健闘に期待したい。

河崎ラケット×ヨネックススポーツ

河崎は湯木のシングルスは完全にポイントをあげられるのだから、なんとかしてダブルスでの1ポイントをねらうところである。

当然ヨネックスはシングルスは捨てて、ダブルス全勝にかけるしかない。

栂野尾、土田、飯野のメンバーでペアをひとつ、そして関根・大塚のコンビ、ということになろうが、土田は社会人大会優勝ですっかり自信をつけており、楽しみなところ。

これに対し、河崎は千葉・沢内組、近藤・渡辺組でいくことになろう。このペアはどちらも、好不調の波が激しく、やってみなければ予測がつかないという面を持っている。しかし、選手それぞれが自分の役割をはっきりとつかめるため、コンディションづくりはうまくいくかも知れない。

いずれにしてもこの対戦での勝者が、優勢を伝えられるサントリーと覇を競うことになり、どちらも闘志をむき出しての大熱戦が期待できる。

なお、日本リーグに関してのお問合せ等は、日本バドミントン協会（03―467―3111）まで。

なく「どちらも（for each side）」のこと。たとえば Score is tied 5 all（得点は5対5の同点）だとか game one all（ゲーム1対1＝審判のコール）などのように使われる。ゲーム1オールの場合、バドミントンではもう1ゲーム（the third and final game）を行って勝負を決める。☞ ゲーム、マッチ、セッティング

All-England Badminton Championships オール・イングランド・バドミントン・チャンピオンシップス。すなわち全英選手権大会。1899年に始まり、バドミントンでは世界最古の歴史と権威を誇る。他国選手の参加を認める、いわゆるオープン選手権。1975年から、3年に1度の世界選手権が始まったが、全英選手権は個人種目（シングルス、ダブルス）の非公式世界一を決める大会と見なされ、その権威は少しも落ちていない。

参 Championships と〝選手権〟が複数になっているのは、シングルス男女、ダブルス男女、混合と、5種目にわたってタイトルがあるため。また All と England の文字の間にハイフン「－」がつく。最近は、これをつけない書き方も現われているようだが、これをはぶいた場合は「英国中のすべての選手権大会」とまぎらわしくなるので注意を要する。オール・アメリカ（英語辞書を参照）オール・ジャパン（日本教職員バドミントン連盟監修・大会運営規定100問集参照）などの表現も同じ。英語の新聞記事などでも、はぶく書き方はまだ一般化していない。

alley アレーと表記している。コート面の左右両側の、シングルスとダブルスのサイドラインにはさまれた細長い区域。ダブルスでは、ここをストレートでねらう打球が多く、また効果的であるところから、そのような打球をアレー・ショットと称している。また、コートの後陣部分、単複のロング・サービス・ラインで形成される細長い区域をバック・アレーと呼ぶことがある。

参 アレーは主として米国で使われる言葉で、路地、公園や森の小径から転用された。英国では tramline（トラムライン）と呼ぶのがふつう。これは路面電車（市街電車）の線路のことである。

amateur アマチュア。古代ギリシャ時代、古代オリンピック競技者に関連して生まれた言葉。本来は〝愛好者〟という意味。スポーツの分野では「金銭や物質的利益を目的とせず、趣味としてスポーツを愛好するもの」のことだった。

現代では、一般用語としてもっと広く使われ、いわゆる専門家に対する〝しろうと〟を意味することが多いけれども、スポーツ用語では「プロでないもの」がすべてアマチュアではなく、もっと狭く「協会など、アマチュア・スポーツ組織に登録した競技者」を指す。しろうとであっても、登録競技者でなければ（たとえば、市営体育館のバドミントン教室に通っているママさん）アマチュア競技者とはいわないのがふつう。

アマチュア競技者の理想像、アマチュア・スポーツ界の理念にあたるものが amateurism（アマチュアリズム）であり、アマチュア競技者のやってはいけないこと（主としてプロ類似の行為）を条文で明記したものがアマチュア規定（amateur rules）といわれる。登録競技者がアマチュア規定に違反した場合はアマチュアとしての資格（amateur status）を取り消されることがある。取り消されると、それまで所属していた組織が主催、主管、派遣するような競技会には出場できなくなる。

日本バドミントン協会にもアマチュア規定がある（1971年1月1日施行）。

☞ プロおよびオープン

anabolic steroid アナボリック・ステロイド。蛋白合成ホルモン。蛋白質を体内で合成するのにいちぢるしい効果があるので、一般医療（患者の体力増進）にも広く用いられている。この特性を利用して、一部のスポーツ選手（重量あげ、レスリング、陸上の投てき種目の選手など）が愛用し、短時日のうちに筋肉量をふやすことを試みている。このため、このような行為は「フェアでなく、アマチュア・スポーツ精神に反する」として IOC（国際オリンピック委員会）から処罰を受けたものもいる。

☞ doping（ドーピング）

angle アングル。名詞では「打球の角度」、動詞として「角度をつけて打つ（相手コートに斜めに、つまり対角線方向に）」の意。ネットに平行に近い角度になればなるほど「角度がある」と表現する。単に（ストレートでないという意味で）斜め（すなわちクロス）に打ったものより、もっと意図的に角度をつけた打球のことを angle shot または angled shot と呼ぶ。また、広角に打つことを hit wide（ヒット・ワイド）と表現することが多い。

以上は、コートの平面上から見た打球軌道に関する角度のことだが、もう一つ、コートを側面から立体図でとらえた場合、問題になる角度がある。すなわち、シャトルが空中から床面へ（上から下へ）落下していく軌道を表現するもので、ネット面に平行（垂直角）に近いほど鋭角（acute）という。スマッシュやドロップはその代表的な打球である。反対に、床面に平行に近く飛ぶ場合、その軌道はネット面（垂直面）に鈍角（obtuse）である。

〈Aの部つづく〉

バドミントンの用語ABC

後藤忠弘／編

はじめに

バドミントンは英国で作られ、発展しました。したがって、公用語も英語ですし、私たち日本人が日常、使っている技術や規則等に関する用語も、英語をそのままカタカナに置き換えたものが圧倒的です。

しかし、残念なことに、これらの数多くの言葉は、必ずしも正しく使われ、正しく理解されているとは限りません。いつ、どこでそうなったかはともかく、なかには誤用や和製英語（一見、英語風だが、使った場合、英語としては通じない）もないとはいえないようです。

一方、もちろん、英語を母国語とする人々の中で使われている言葉自体にも、時代とともに変化があり、昔といまでは、同じ意味を表わすのに、別の言葉を使っている場合がありますし、また、主として英国で使われる言葉と、米国で使われる言葉が、若干、違う場合もあるようです。

そこで、これから何ヵ月かかけて、これら用語の点検をやってみようと思います。このために、取り上げる用語は、バドミントンの専門用語（と思われているものの中にも、テニスなどからの借用がある）のみならず、関係の深い一般スポーツ用語を含めることにしました。

スポーツ関係用語は、ふつうの英和辞典を引いても、なかなか、納得のいくような訳が載っていないものです。このため、本欄ではそれらの弱点を補い、単にある英語を日本語に置き換えるのではなく、必要に応じて、語源、一般用法、関連語にまで触れ、いわば〝辞書〟ではなく読んでも楽しい〝事典〟として役立つようにつとめました。中高生の勉強にも、多少は手助けになると思います。

見出しは英語のみに統一しました。文中㊟は参考、また㊞は「その項も見よ」の意味です。

もちろん、筆者の〝学〟には限りがあり、間違い、思い違いもあると思います。そのような場合には、遠慮なく、編集部まで意見・異見をお寄せ下さい。

Aの部

ace　エース。①攻撃であげたポイント（得点）。本来はサービス・エース同様、受け手がラケットで触れることが出来ず、したがって返球できないため、攻め手のポイントになった打球。いわゆるノータッチの球を指すが、現在ではもっと幅広く使われている。（テニスでも同様の使い方をしている）②サービス・エース。レシーバーが触れることが出来ず、得点になったサーブ球。しかし、最近ではこの定義も崩れつつあり、レシーバーが受けはしたが、明らかにサービスの威力がまさったため、有効な返球が出来なかったものも、エースに含める人もいる。

㊟　以上のほか、③ゴルフのホールインワン ④チームの主力、切り札的存在の選手（特に野球で投手に対し）に対して用いることが多い。また⑤以上の①②③項について、動詞として用い「エースをとる」意にもなる。

もともとは、西洋のカード遊び（日本語ではこれをトランプといっているが、トランプはカードの中の〝切り札〟のこと）で1の札、最強の札、またはダイスの1の目を意味する言葉が、スポーツ用語として転用された。

Achilles' tendon　アキリーズ・テンドン。すなわちアキレス腱。足のふくらはぎとかかとを結ぶ強い腱（けん）だが、準備運動不足の状態で、急に激しい運動をしたり、無理な動きをしたりすると、切れてしまうことがある。切断してしまうと、回復には手術が必要で、スポーツ選手は1シーズンを棒にふることになる。バドミントンは他の競技にくらべて、比較的に身体の傷害事故が少ないが、アキレス腱の事故だけは目立つ。
湯木博恵のような世界最高レベルの選手でも、手術の世話になっている。一般にも注意が必要。

㊟　ギリシャ神話（ホーマー作のイリアッド）に出てくる不死身の勇者アキレスが、彼の唯一の弱点であるかかとを射られて、ついに倒れたという故事から出た。ちなみに〝アキレスのかかと〟といえば、人の急所、弱点という意味になる。

ahead　アヘッド。前方へ、先行して、という意味から、スポーツでは「目下のところ勝ち越して（リードして）いる」のように使われる。例 He was five points ahead of his opponent in the first game when……（第1ゲームで5点リードしていたとき）

㊟　a（～の方へ、付いて）という接頭語とhead（頭）が組み合わさった語。反対語はビハインド（behind）で「後方に、遅れて」の意、テレビ放送などでも「3点のビハインドを背負って」などと使われる。

all　オール。スコアがタイ（tie＝同点）であること。この場合のオールは、だれでも知っている「全部」では

台風20号直撃で 列車に一晩カンヅメ

今年の国体は、大型台風20号にたたられ、大会二日目からは連日の雨で、国体ならぬ「酷体」といわれるほどだった。

バドミントンは屋内競技のため運営そのものには、直接影響はなかったが、一部の選手は、帰りに台風の直撃を受け、大変な経験をした。

その中でも〝悲劇的〟だったのが神奈川県チーム。成年男子一般の監督鈴木勝之氏の「行きはよいよい、帰りはこわい」のひとことが、そのすべてを集約していた。

その足跡をたどってみると…

宮崎という交通の都合上、神奈川県体育協会では、早くから輸送の万全を期し、特別列車、フェリーとならんで、全日空トライスター鹿児島行きの130余席を確保していた。

バドミントン・チームはその空路を利用、鹿児島からは、やはり特別にチャーターしたバスに分乗して、さっそうと西都入りした。

今大会で教員の部が廃止されるとあって、教員チームの家族をはじめ、県協会副会長・理事長も同行した。

そのバックアップを受け、選手は大いに健闘、一般の部で準優勝、教員の部でも四位に入賞する活躍をみせた。

ここまでは順調…。

全競技を終了した18日午後、選手団は三つに分かれて帰路についた。

三番目の一般チーム四名が西都を出る頃には、すでに土砂降りで妻線は不通になっており、19時06分の彗星6号にギリギリとなってしまった。

しかし幸い土地カンのすばらしいタクシー運転手のおかげで、宮崎駅にすべり込み。

ここで二番目に宮崎へ到着していたメンバーと合流。ところが、三時間前の彗星4号で帰っていたはずの、先発組教員チームが、4号の運休のためホームにいてびっくり。

猛烈な雨に全員不安〟もう運休だろう〟という観測をよそに、彗星6号は定時に出発。鈴木監督、瀬戸教員監督、小島、高橋、菅各選手、応援の宮本さんらは寝台車に乗り込んだが、4号に乗るはずだった池田選手夫妻、東京教員の佐藤選手、観戦にきていた梅野尾さん（ヨネックス）らは食堂車に乗り込んだ。

定員420人を超える480人を乗せて19時06分宮崎駅を発車。オーバー分の60人は、千葉、京都などの国体選手で、彗星4号から振り替えた人々、飛行機の切符は持っていたものの、宮崎空港が〝閉鎖状態〟のため、やむなく列車に切り替えた人々であった。

しかし発車後間もない午後8時ごろ、日豊本線の南日向付近の線路のポイントが豪雨のため故障し、美々津駅でストップ。

食堂車に乗り込んだ（というよりはつめ込まれた）人々は、床に新聞紙を広げ、バッグをまくらにザコ寝。調理所まで人でうまった。

池田選手らは、不安と退屈をまぎらすためトランプで時をすごした。

美々津駅は無人駅のため、国鉄は近くの高鍋駅から助役二人を派遣、大分鉄道管理局の対策本部と連絡をとりながら対策を検討。19日午前3時半ごろ、宮崎駅にいったん引き返すことを決め〝Uターン〟を開始。

ところが、今度は宮崎寄りの新富駅ポイントが故障、前後をふさがれた形で高鍋駅で再び立ち往生。

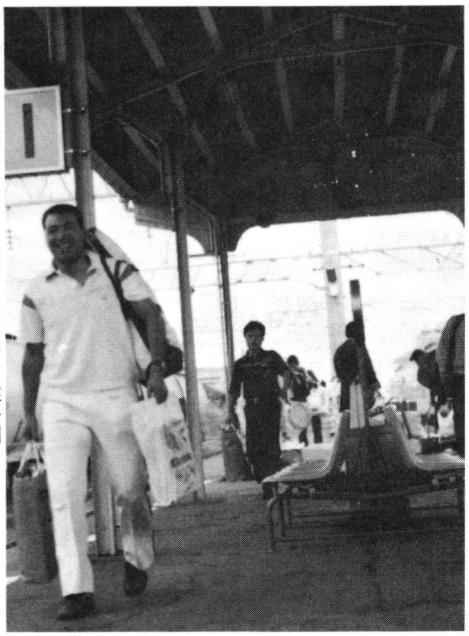
国鉄側は延岡駅以北の運行が可能なため、同5時半、延岡駅までのバスによる代替輸送を決定、宮崎市から呼んだバス10台が同7時10分、高鍋駅に到着。選手たちは両手のバッグも重そうに、疲れ切った表情で、列車からバスに移った。そして同9時10分延岡駅に到着。

台風一過の青空をうらめしそうに見上げながら、各選手は、「本当なら新大阪のはずなのになぁ」とため息。

延岡からは小倉行きのにちりん6号に乗り込んだが、国鉄が用意した弁当を食べながら、「これで帰れるのか」とホッとひと息。

ところが、小倉で降りて、またまた立ち往生。

新幹線が大幅に遅れており、



疲れ切った表情で列車からバスに向かう選手団

また連休続出で、どの列車も通路まで人でいっぱい、車両によっては、ドアの閉まらないものもあるといった具合。

そして情報によれば名古屋より先は行かれそうもない、という。

全員ホーム上で相談の結果、とにかく京都まではなんとしても行きたいという高橋選手と、行けるところまで行くという菅選手が、ひかりに強引に乗り、残りは、すでに疲れが限界に達していたこともあり、小倉に一泊を決定した。

幸い駅近くのビジネスホテルに空室があり、鈴木監督以下8名はホテルにはいった。

その後、関東地方も台風の直撃を受けているというニュースがはいり、一同胸をなでおろした。

試合の疲れに、列車カンヅメの疲れが重なり、この夜は全員早々にベッドにはいった。

翌20日も新幹線は運休につぐ運休で、午前10時10分発のひかりに乗り、空席もなく、またしても疲れが増幅しそうであったが、幸いに広島で全員座ることができた。

東京駅近くでも一時間近く立ち往生したあと、ようやく到着したのが午後7時。

さすがに全員、口をきく元気もなく、それぞれの家路についた。

以上が48時間ぶりに、ひと息つくことのできた神奈川県チームの〝酷体〟であった。

あなたも挑戦してはいかが!?

トリプルズのすすめ

日本ではめったにお目にかかれないトリプルズ（三対三）トーナメントがロンドンで開かれた。

これは当地の高校生のレベルでは、まだ混合ダブルスが無理だと思われたからである。

この日は高校男女が数多く会場につめかけ、このぶんなら定期的に開くこともできそうな雰囲気だった。

三人のプレーヤーは、コートに〝T〟字形にポジションをとり、一人がネットぎわに、二人がバックコートにかまえているため、ほとんど死角がなくなり、お互いに、強いショットの打ち合いとなった。

シャトルは目を見張るような速さで行き来し、ラリーに終止符を打つのは、ほとんど攻撃的なショットだった。

その大半がスマッシュかドライブで、ロング・ハイ・サービスは手ひどい攻撃を受けるために、あまり使われなかった。

このトリプルズの良い点は、ラケットさばきがすばやくなることと、正確なプレースメントを養えることである。なにしろ三人ずつでシャトルを打ち合うわけだから……。

コートに三人ずつでは、ぶつかりあったりするのではないかと心配する人もいたが、ラケットを折った人もいなかったし、衝突した人もいなかった。

トリプルズのルールは次のとおり。

①チームの三名は、ナンバー1、ナンバー2、ナンバー3と呼ぶ。

②サービス権は1イニングにつき3回ある。

③サービス、コートは偶数のときは右側から。奇数のときは左側からである（シングルスの場合と同じである）。

④サービスをレシーブする順序は、ナンバー1、2、3そしてもう一度ナンバー1からを繰り返す。

⑤その他のルールはすべてダブルスと同じ。

このトリプルズに慣れるには少し時間がかかるかも知れない。そのために最初はラリーもあまりつづかないだろう。

しかし、これは決して〝未熟な〟プレーヤーのためのものではない。

守りの弱いプレーヤーは、この攻撃的なトリプルズにはついていけないであろう。

十分にスマッシュを受けられる技術を身につけていないと、そのプレーヤーは非常にくじけた気分を味わうことになってしまうだろう。

最後に、実際にトリプルズをしているプレーヤーの感想を紹介しておこう。

〝こんなに楽しく、興味深い経験は初めてだ!!〟

（「オンタリオ・バドミントン」9月号から）

海外の雑誌（紙）購読ご希望の方は下記のように直接お申し込みください。

◆"BADMINTON" 年12回発行。
近くの銀行の外国為替係で15ポンドの送金小切手を作成し，
Subscription Dept., BADMINTON,
77 Great Peter Street, London,
SW1P 2EZ, England
あて送る。小切手の受取人は，
Marsh Publications Ltd, とする。

◆"Ontario Badminton" 9月～2月年6回。
4ドル50セントの送金小切手を作成し，
Mr. Bev Green, 5 Superior Street,
Kapskasing, P5N 2C3, Canada
あて送る。小切手の受取人は，
Ontario Badminton Association とする。

どちらも必ず書留便とし，小切手のコピーを保管する。また住所・氏名は読みやすく活字体（できればタイプライター）で明記すること。

TOKYO LETTER

by Miwako Wakazono & Carolyn Nakamura

The autumn tournament of the 34th National Athletic Meet was held in Miyazaki Prefecture in Kyushu for five days from October 14-19.

In this National Meet, the urban and rural prefectures compete against each other in various fields of sports including baseball, swimming, skiing, volleyball, gymnastics, and of course, badminton.

The points from all of these events are then totaled and the Emperor's Trophy is presented to the winning prefecture.

In addition, the prefecture whose women have scored the highest total number of points is awarded the Empress' Trophy.

His Imperial Majesty Emperor Hirohito attended the opening ceremony which was held on October 14 amid great pomp and fanfare. Fireworks were set off, brass bands played, and the local elementary, junior high school, and high school students put on joint effort performances. It was really a sight to behold !

The badminton matches were held south of Miyazaki City in Saito City, famous for its ancient tombs.

The participants were separated into five divisions, adult men, adult women, boys, girls, and men teachers, and one doudles and two singles team matches were played.

It rained continuously because of the approaching typhoon, but inside the gymnasium heated battles unrolled before our eyes one after the other every day.

Chiba Prefecture won in the adult men's division and the team from Kanagawa Prefecture, one of whose members is the former All Japan champion Ippei Kojima, came in second.

The adult women fought very close games, but Tochigi Prefecture finally emerged victorious.

In the boys' division, Inter-High School champion K. Gondo's team from Kumamoto Prefecture took the honors, as did Inter-High School champion S. Kitada's team from Osaka Prefecture in the girls' division.

Last but not least, the men teachers from Ishikawa Prefecture also came out on top.

To represent the prefecture in which we were born and to have the opportunity to participate in this National Meet is for us a great honor and privilege. And as we are playing and competing with all our might, we become aware of how much we love our native places, our hometowns.

The players have now returned to rigorous training in their respective sports, with next year's National Athletic Meet as their goal.



CARBO DELUXⅡ

S-79

新製品

カーボデラックスⅡ

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

CARBO DELUX

S-77

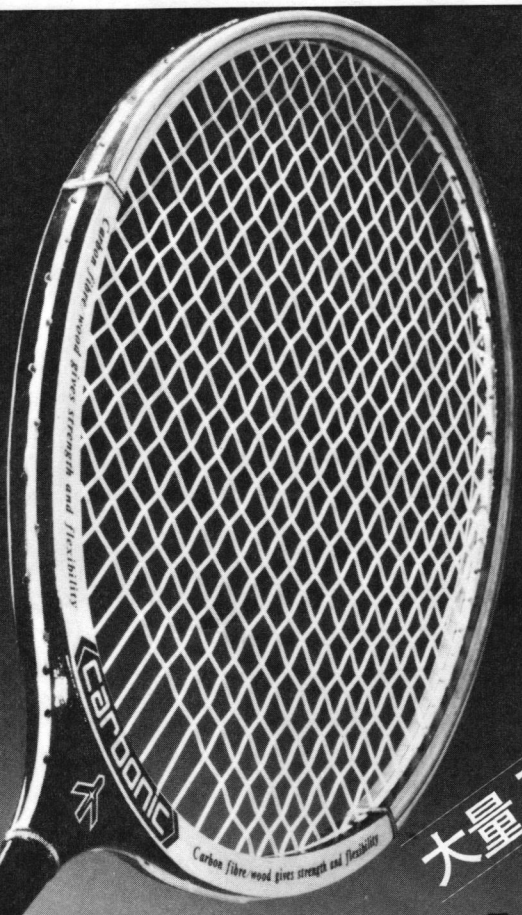
カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

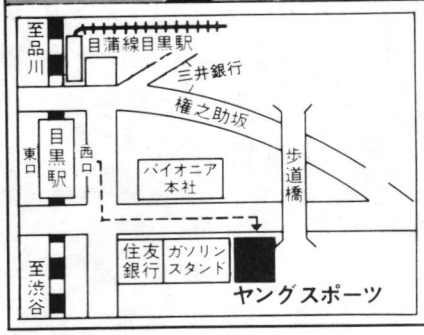


Liem Swie King
1978年度全英選手権
男子シングル優勝



大量入荷!!

'79バドミントンラケットは カールトンだ!!



ヤングスポーツ

〒153 東京都目黒区目黒1-3-16 目黒駅西口1分 ☎491-7822

特派員だより

台風接近の前ぶれか、異様にむし暑さを感じる9月30日、大阪府立体育館別館で、第29回大阪高等学校定時制通信制秋季大会が行なわれました。(団体戦一複一単形式)

男子は桃谷高校(個)Aチーム、女子は今宮Bチームがそれぞれ優勝しました。

日頃、昼は仕事、夜は勉強と毎日が非常に辛いことと思います。出場選手のほとんどが、練習も週一、二回と聞きました。

しかし、みんなの顔には働きながら学び、そしてまたスポーツにと意欲あふれる明るさがみなぎっていました。

さて試合のほうは、男子は桃谷高校(個)Aの圧勝といった感じでした。団体戦とはいったものの、この桃谷高校は、古市、斉藤と二人だけで、常に古市が連続出場。古市は他の選手に比べ、とにかく基本が正確で、クリアー、カット、スマッシュをうまく使い分けた落ち着いたプレーで、ダブルス、シングルスに活躍。敗れた四条畷高校Aチームも、今宮Aにダブルスを先取されながらも、第一、第二シングルスともに接戦の末、辛くも逃げ切っての決勝進出だったので、立派な準優勝ということができるでしょう。

女子は、今宮高同士となり、手の内を知っての決勝か、今宮Bの越智、中岡組は、まだまだ基本ができあがっていないが、息の合ったプレーで相手の谷中、今中組を圧倒。とくに越智は、前衛にまわった時はほとんどをストップし、上がった球を中岡が打ち、終始ハッスルプレーの連続でした。

第一シングルスの佐原も、相手の今中に対し、クリアー、カットをうまく使いわけ、前後にゆさぶり、これも終始圧倒。この今宮Aも、谷中、今中と2人だけで、常に今中が連続出場、最後は体力負けといったところで終わりました。

一応試合は無事終了。しかし全体的に見てレクリエーション的な印象が非常に強く、とくに女子はその傾向が大、勝負は二の次といった感じ。一、二回戦などは、まれに線審もいないことも……。しかし自分達で「イン」「アウト」……。

それはそれで意義があるとは思いますが、もう少し役員の皆さんも大会の運営に力を入れてほしいし、選手の皆さんも試合に出る以上もう少し学校を代表する選手としての自覚を持って、働く学生の根性といったものを見せてほしいと思いました。

そして、各学校ともバドミントンの経験のある先生なり、コーチに指導してもらい、基本を正確に身につけてほしいというのが私の意見です。

試合の結果は次のとおりでした。

▼男子準決勝
四条畷A　2－1　今宮A
桃谷個A　2－0　桜塚

▼同決勝
桃谷個A　2－0　四条畷A
古市　15－1　0　大重
斉藤　15－5　0　中川
古市2　15－4　0　大重
15－2

▼女子準決勝
今宮B　2－0　桃谷集A
今宮A　2－0　四条畷A

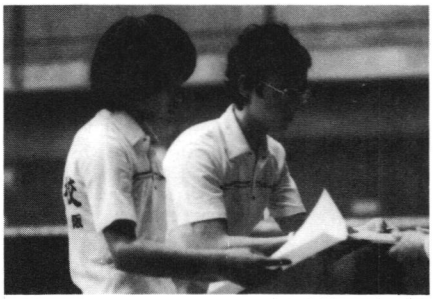
▼同決勝
今宮B　2－0　今宮A
越智　15－7　0　谷中
中岡2　15－6　0　今中
佐原2　11－0　0　今中
11－4

(レポート＝大阪市津村正道)


今宮高校Bチーム


桃谷高校Aチーム


今宮高校Aチーム


四条畷高校Aチーム

◆昭和54年度関西学生バドミントン新人戦

川嶋、石田の健闘光る

昭和54年度関西学生バドミントン新人戦は、8月27日から9月7日まで、大阪市の臨海スポーツセンターにて行なわれました。

「前年度新人戦でシングルス、ダブルス共、3位以内に入賞した者は、今年度大会には出場できない」というのが関西のルールです。そのため多くの人に、「優勝のチャンスあり」というわけですが、果たして今年の結果は……。

▼男子シングルス

嘉生（奈良教育大2年）が出場せず、もう一つ戦前の盛り上がりを欠いた大会ではあったが、それをピリッと引締めたのは、川嶋（近大1年）の大活躍であった。

準々決勝で京大の本多、準決勝で関大の宇野と、優勝候補に挙げられていた2人をいずれもファイナルの末に退けて決勝に進出。かたや斉藤（京都教育大2年）は、丁寧なプレーで鳳（竜谷大2年）を辛くも破っての決勝進出である。

川嶋は持前のガッツと効果的なショートサービスで相手のペースをくずす作戦が成功。粘り強いプレーで追いすがる斉藤をこれまたファイナルで下し、栄冠を手中に納めた。川嶋は攻撃に厚みが出てくれば、これからの活躍が十分期待できる。

▽準決勝

川嶋 2（15—9, 2—15, 15—5）1 宇野

斉藤 2（4—15, 15—11, 15—7）1 鳳

▽決勝

川嶋 2（15—12, 10—15, 15—9）1 斉藤

▽三位決定戦

宇野 2（15—5, 15—7）0 鳳

▼男子ダブルス

これといった波乱はなく、各シードがほぼ順当に勝ち進んできた。その中で樋岡・戒野（大経大2年）と浜本・中西（近大2年）が頭一つリードしていた。

決勝では精力的に動き回り、攻撃時間の長かった大経大ペアが、近大ペアを2ゲームともセッティングにもつれこむ接戦の末、勝利をおさめた。特に2ゲーム目終盤、劣勢であったのを挽回、逆転したのはみごとだった。しかし大経大ペアにも連続して得点される不安定さがみられ、今後に課題を残した。

ベスト4に進出した鳳・小笹（竜谷大2年）、星野・林（大阪教育大2年）の健闘もこの大会を盛りあげた。

▽準決勝

樋岡 戒野 2（15—10, 15—11）0 鳳 小笹

浜本 中西 2（15—7, 15—9）0 林 星野

▽決勝

樋岡 戒野 2（18—13, 18—16）0 浜本 中西

▽三位決定戦

鳳 小笹 2（18—13, 11—15, 15—8）1 林 星野

▼女子シングルス

四条畷の石田と天理の阿部の争いに、他の各校の有力選手がどのように加わるかが注目されたが、やはり評判通りこの両者の実力がひいでていたようだ。

決勝は好試合が予想されたが、春からぐんぐん力をつけてきている石田が終盤のねばり強さをみせ決勝した。

このところ関西では四条畷の天下になっているが、他の大学の奮起を期待したい。

▽準決勝

石田 2（11—8, 12—9）0 吉川

阿部 2（11—6, 11—1）0 築田

▽決勝

石田 2（11—6, 11—7）0 阿部

▽三位決定戦

吉川 2（キケン）0 築田

▼女子ダブルス

戦前の予想通り、四条畷の石田・合川、天理の阿部・吉川の対決となった。関西選手権の準々決勝の時は、ファイナルにもつれこみ、大接戦の末に辛くも勝った四条畷ペアだが、今回は攻守に天理ペアを圧倒して優勝を飾った。

この2つのペアの他には、築田・田中（大阪教育大2・1年）が活躍し、ベスト4に進出。また大阪体育の四ツ井・西岡は、シードの棄権に恵まれたとはいえ、1年生ながらベスト4に進出したのは、大健闘といえよう。

▽準決勝

合川 石田 2（15—3, 15—6）0 四ツ井 西岡

阿部 吉川 2（15—8, 15—4）0 築田 田中

▽決勝

合川 石田 2（15—6, 15—6）0 阿部 吉川

▽三位決定戦

築田 田中 2（15—2, 15—9）0 四ツ井 西岡

（関西学連記）

分析シリーズ

バドミントンの時間分析

ワールドカップ'79女子ダブルス決勝

——その4

日本体育大学監督　関根義雄
国分寺市バドミントン協会　平川卓弘

ワールドカップ分析連載の最終回です。本誌面に発表した「時間分析」の情報から、何とかゲームに必要な資料が得られそうな気になってきました。1/60秒単位の細かい情報によって肉眼では見過ごしてしまう現象が記録に留められたことは一つの収穫でした。

これらの情報が他の研究者の発想に対して何らかのプラスになれば幸です。

前回の続きを以下に示します。

⊙クリアーのリターン

表—5に示すとおりクリアーに対してはどの選手もまずスマッシュです。次がドロップとなります。

その割合を選手ごとに示したのが表—6です。スマッシュした割合の最も多いのは植野選手で67%。次がベラワティ選手の64%。続いて米倉、イメルダ選手の57%、54%です。

クリアーに対してクリアーを一本も打っていない選手は植野、イメルダの二人です。

表—7は浮いた球をスマッシュする際何本続けて打ったかを調べたものです。

植野、ベラワティの二選手は一度に2本、3本と連続スマッシュするため表6～7に示すスマッシュの本数が多くなっているわけです。

スマッシュ数の少ないイメルダ選手はスマッシュエースも少ない（表—7）のですが、同じようにスマッシュ数の少ない米倉選手はエース率40%と4選手中最も高い値であることは注目すべき点です。

また、クリアーに対するドロップの攻めはイメルダ選手が46%で最も多く、他の3選手は22～24%と同程度になっています（表—6）。イメルダ選手はスマッシュかドロップしか打たないというきびしい戦法を取っています。

この試合全般を通じて女性の対戦としてはラリーが短かかったのは、このようにお互いに積極的な戦法を展開したためだったのでしょう。

⊙スマッシュのリターン

スマッシュのリターンは表—8に示すとおり、プッシュに対するリターンの場合と似たものになっています。

植野、イメルダ選手は米倉、ベラワティ選手に比べてスマッシュを多くレシーブしています。これは、両選手とも後衛を守る機会が多かったからでしょう。

ベラワティ選手はスマッシュに対してハイクリアー、ドリブンクリアーと全レシーブの86%を、受け身のリターンで対応しています（表—9）。

植野選手はドライブ、ドリブンクリアーとドライブ気味の高さの低いリターンが多く、二つの技を合わせて85%になっています。ベラワティ選手に比べて速い球のリターンが多いのですが、危険はそれだけ多いと思います。

米倉選手もベラワティ選手に似た形でレシーブしていますが、違う点はベラワティ選手に比べてアンダーカットでネットに返している割合が多いことです。

イメルダ選手は返球に技術的な変化をつけ、最も理想的なパターンを用いています。表—9に示すとおり、アンダーカット32%、ドライブ32%、ドリブンクリアー20%、クリアー

表－5　ハイクリアーのリターン（本）

	日本		インドネシア		合計
	米倉	植野	ベラワティ	イメルダ	
スマッシュ	13	26	29	14	82
ドロップ	5	9	11	12	37
ドライブ	1	4	2	0	7
クリアー	4	0	3	0	7
合計	23	39	45	26	133

表－6　ハイクリアーのリターン（選手別割合・%）

	日本		インドネシア	
	米倉	植野	ベラワティ	イメルダ
スマッシュ	57%	63%	64%	54%
ドロップ	22	23	24	46
ドライブ	4	10	5	0
クリアー	17	0	7	0
合計	100%	100%	100%	100%

表－7　連続スマッシュの数（本）

		日本		インドネシア	
		米倉	植野	ベラワティ	イメルダ
スマッシュ		15	18	21	12
連続数	1	13(6)	12(1)	15(4)	10(1)
	2	2	3	3(2)	1
	3	0	3	3	1

（　）内はエース数

表－8　スマッシュのリターン（本）

	日本		インドネシア		合計
	米倉	植野	ベラワティ	イメルダ	
ドリブンクリアー	6	8	6	4	24
ドライブ	1	10	1	6	18
クリアー	5	2	7	3	17
アンダーカット	2	1	1	6	10
合計	14	21	15	19	69

表－9　スマッシュのリターン（選手別割合・%）

	日本		インドネシア	
	米倉	植野	ベラワティ	イメルダ
ドリブンクリアー	43%	38%	39%	20%
ドライブ	7	47	7	32
クリアー	36	10	47	16
アンダーカット	14	5	7	32
合計	100%	100%	100%	100%

16%と返球の種類によって特にかたよることもなく、予想しにくい返球であると評価できます。常に積極的に攻め込むチャンスを作りながら戦っています。ネットを利用したアンダーカットを上手に活用している戦法は、男子に似たパターンです。見習うべき戦法の持ち主です。

⊙試合の進行とスマッシュスピード

図－3は第1ゲームから第2ゲーム終了までの時間を通してスマッシュの速さがどのように変化するか調べたものです。

一般によくトレーニングされた選手では、後半にむしろスピードが速くなる傾向があるようです。

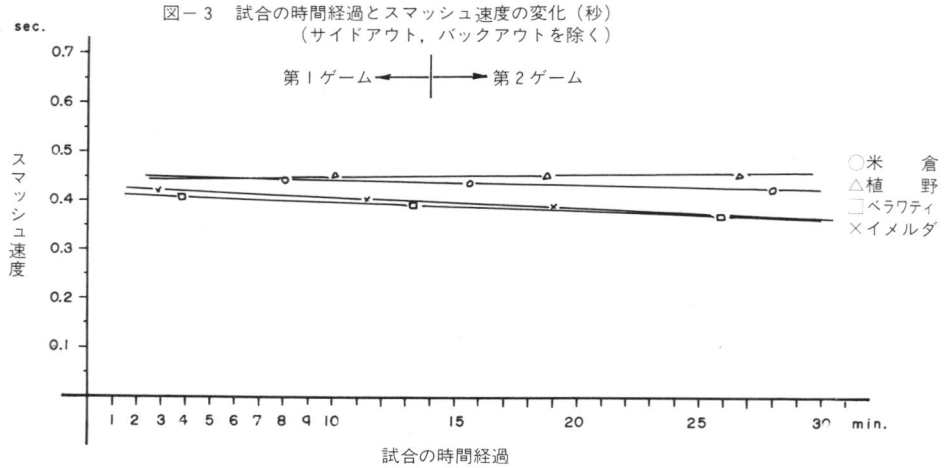
図－3から、このゲームでは敗れたインドネシアチームの方が速いスマッシュを打っていたことがわかります。

⊙気になるリターン技術

相手選手からスマッシュ、プッシュなど速い球の攻めをされたときの返球技術のうち、ドライブ気味のフライトで対処する（植野選手のように）場合があります。ダブルスゲームの場合にこのドライブまたはドリブンクリアーがしばしば相手チームの前衛の餌食となっています。特に男子ダブルスの場合に顕著です。選手の技術が一定のレベル以上になると、相手の攻撃に対して例え速い球で打ち返しても上手にネット際でカット、ストップまたはプッシュによって抑えられてしまい、次の瞬間一気に劣勢になってしまいます。

攻める側の立場からいえば、落ちてくる球

図－3　試合の時間経過とスマッシュ速度の変化（秒）
（サイドアウト，バックアウトを除く）



を拾っているかぎり相手のミス以外に勝つチャンスは出てこないので、勝つためにはどうしても前衛で球をつかまえて攻めなければなりません。日本の男子ダブルスではヨネックスの飯野佳孝選手が前衛攻撃にきわめてすぐれた能力と技術をもった選手です。

女子ダブルスは近い将来、男子と同じような戦法が要求されると思います。日本の女子は現在世界一流のプレーヤーが多いですが、さらに技術の向上を願い、よりすぐれた技術を習得して強い選手に成長されることを望みます。

⊙時間値からみた技術目標

私達の分析作業の結果から表現すると、スマッシュなどの速い打球は相手選手がシャトルをヒットしてから味方選手のところに飛来するまでの時間は0・35秒（実測値）です。

そこでトップ・プレーヤーをめざす者に対して技術目標を設定する場合、勝つためのトレーニングをする場合は攻める技術、受ける技術とともにこの0・35秒という「打球を処理するために与えられた時間」により多くのプレーができるよう集中的にトレーニングすることが必要になります。

選手やコーチがこの事実を冷静に認めて、この時間内で処理できる「攻めの技術」を習得する努力がきわめて重要だと思います。

（おわり）

スターティング・バドミントン



すぐに役立つ決定版!!
絶賛発売中!!

バドミントン史上最強の天才プレーヤーが，その体験をもとに、初心者・中級者向けにわかりやすく、具体的に解説した入門書の決定版――――――――!!

「本書は、ジュディ・ハッシュマンが豊富な経験をもとに、初心者向きに書いたものですが、さすがにジュディらしく、すぐ実戦に役立つように書かれています。

そのうえ、それぞれの目的に応じた練習法が紹介されているので、本書をただ最初から最後まで読み通すだけで満足することなく、目的意識をもった能率的な練習をするための必要な手引として、そのつどそのつど、コート上で利用する方が、よりいっそう効果が大きいと思われます。

また、たとえトップ・プレーヤーであっても、本書に書かれたジュディの試合に臨む考え方などは、大いに参考になるはずです」――――――――中山紀子

B5判変形・128ページ
定価1200円

本書は全国書店のスポーツ書コーナーで発売中ですが、万一店頭にない場合は送料160円を加えて、本誌巻末の振替用紙をご利用のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。日本バドミントン協会出版局（03－467－3111）

読者と編集者

椎田で少女バドミントン

先日本誌上で募集いたしました特派員の記事を見て、さっそく名乗りをあげてくださいました、福岡県の池端康弘さんから次のようなお便りが届きましたので御紹介いたします。

「体力をつくり協調心を養おう」――26日、築上郡椎田町体育館で、町内子供会の小学生女子バドミントン大会が開かれ、百三十三チーム、二百六十六人が参加、熱戦を展開した。

同大会は、町子供会育成連絡協議会主催で45年からスタート。男子は相撲、ソフトボール、女子はバドミントンを種目に子供会対抗試合をしている。

こうしたスポーツ大会が行われるようになってからは、子供会もチームワークを身につけ、協調性が身についたと父母にも好評で、親が積極的に子供会活動の世話をするなどの効果を生んでいる。

バドミントン大会は小学校4年生以上が参加、1チーム2人で、学年別のトーナメント戦。この日は夏休み最後の日曜とあって、会場の体育館には、父母がどっと詰めかけ、声援を送った。選手たちも、これにこたえるようにきびきびしたプレーを見せていた。

この結果、小原真如寺子供会が各学年とも優勝するなど活躍、子供会別の総合得点では、同子供会が第1回から連続10連勝した。

（8月27日読売新聞より）

ワールドカップ大会は？

毎月の発行を楽しみに愛読させていただいておりますが、要望として定価が若干高くなっても、ページ数を多くして試合経過後あまり遅くならないうちに読むことができたらと思っております。

それからお尋ねですが、「バドミントン・ワールドカップ」は今年度も開催されるとなれば、か。開催されるとなれば、いつ頃の予定でしょうか。

（青森県・鈴木喜一）

▼ご要望にそえるよう努力していますが、取材陣が手薄なため、シーズン中は、どうしても報道が遅れがちになってしまいます。各地の特派員の方々にも協力をいただけることになりましたので。順次改善していきたいと思います。増ページの件は、やはり製作費が9月から値上り（とくに用紙関係）したこともあって、すぐに実現するのは困難です。定価はできるかぎり上げないようにしてきましたが、もし製作費がさらに上がるようですと、改訂が必要になってしまいそうです。ワールドカップは今年度も行なう予定で準備を進めています。期日は1月中旬、会場は京都だけでサテライト大会は実施しない予定です。詳しく決まりしだい誌上で発表いたします。

別冊はどうなっている？

ハッシュマン夫人の「スターティング・バドミントン」を拝見しました。連載中も読んではいたのですが、一冊にまとまると、ずっと理解しやすい気がします。とくに連続写真と梅野尾夫妻の解説がすばらしいと思います。さて、以前予定されていた「別冊」はどうなっているのでしょうか。

（大阪市・小倉健一）

▼ワールドカップ79とトマス杯、全英選手権を中心に、写真を多く収録した別冊を予定していましたが、製作関係のコストアップのため、しばらく発行時期を延ばすことになりました。ご了承ください。なお、恒例となりました「バドミントン・ワールド・カレンダー80」は11月30日発行の予定で製作中ですので、ぜひご期待ください。

おわび

9月下旬発行の予定でしたハッシュマン夫人の「スターティング・バドミントン」は約一ヵ月遅れて10月20日に発行となりました。ご予約いただいた皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。おわびいたします。なお全国主要書店のスポーツ書コーナーでも取次店を通して発売しておりますので、ぜひご覧ください。

編集室から

いよいよ一九七九年も大詰め。11月29日からはオールジャパンが始まります。このオールジャパンにあわせて12月号は、毎月の発行日より早めの12月3日に発行の予定です。内容は、全日本学生選手権、関東大学秋季リーグ戦……と盛り沢山。どうぞお楽しみに。

また、例年どおり、代々木第二のオールジャパン会場では、バドミントン界の売店を出します。バドミントン界バックナンバー、ガッツ!!バドミントン、スターティング・バドミントン、バドミントンワールド79ステッカー、バド界専用バインダーなど沢山の商品をそろえてお待ちしています。ただいま予約受付中のバドミントン・ワールド・カレンダーも当日お求めになれますので、近郊の方は、是非来場下さい。

さて、今月号のバド界は、特派員の方二人に登場していただきました。みなさんもおもしろい話題がありましたら、どんどん編集部あてにお便りを下さい。お待ちしています。

carlton
That's the name of the game

世界無敵のパートナー！

リム・スィー・キングとカールトン。



Liem Swie King（インドネシア）

男子シングル世界ランキング1位
'78全英選手権男子シングル優勝
'78アジア大会男子シングル優勝
'79ワールドカップ男子シングル優勝

carlton 3.7 S ¥9,500（ヘッドカバー付）

carlton 3.7 X ¥8,500（ヘッドカバー付）

carlton 3.7 ¥8,000（ヘッドカバー付）



kawasaki

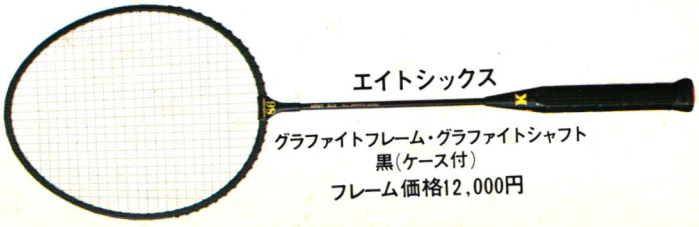
河崎ラケット工業株式会社

世界初のオールグラファイトラケット

バドミントンラケットも確実に進化しました。



グラファイトシリーズ



エイトシックス

グラファイトフレーム・グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円